●本紙は世界主義を標榜して婦人解放を主眼とす

世界婦人

●女子大に讀むべく男子盛んに讀ざる可からず

社說

共産社會の家庭

共産制度が成就せられた曉には、家庭生活は如何なる變化を現はすであろうか、又、家庭其ものが消滅しはすまいか、と言ふとは社會主義思想に觸れた人々の必ず思ひ起す疑問であろう。

社會主義者の内には、社會主義は必然的に非家庭主義なりと考える者も少くない、此一派の唱ふる所を聞くと、家庭生活は一種の個人主義の生活である、殊に今日の家庭制度が人を束縛し損傷するとは決して尠少では無い、社會主義は家庭といふ如き私慾的小門戸を打破して平等博愛なる世界的大樂園を建設せんとするのである、吾等は宜しく家庭に反抗せざる可らず、と說く。

成る程、今日の家庭制度、家庭道德が個人を束縛し個人の精神的物質的自由を毀損するとは實に怖ろしき現象を呈して居る、吾等は宜しく反抗の聲を揚ぐべきである、乍併、社會主義は必然的に非家庭主義であると一概に唱ふるとが出來やうか、共産社會に至らば必ずや家庭といふ如き少團體は消滅すると言ふとが出來やうか、ドウも一概に然りと斷定するとは困難である。

共産制度が完成せられて、財産が社會の公有に歸する時は、家庭が個人生計の保護所、經濟の本據たる事實は消滅するであろう。乍併、其れが爲に一般社會と區別されたる夫婦親子の家庭生活が果して全然消滅すべきものなるや否やは疑問である。

社會主義の世には自由戀愛が行はれる、子が産るれば直ちに社會に屬し、社會が自から之を褓育する、人が老年になれば社會が共同養老所に於て之を養ふ、從て今日の如く家庭生活に對する執着心は消滅する、又、從て家庭其もの、存在の必要が無くなる、かくて家庭生活は共産社會に至りて全然消滅すべしとは非家庭論者の唱ふる所である、乍併、現在の父母の手から小兒を取り去つて社會共同の褓育所に之を收容し、肉身分けた親族より老年者を離して社會が之を養ふといふとが果して自然であろうか、人情に適する仕方であろうか、人生を幸福にする所以であろうか、殊に褓育の目的を達し養老の旨趣を完ふするとが出來やうか、ドウも一概には斷定が出來まいと思ふ。

古來家庭生活には多くの變遷を重ねて來た、或時は善く家庭生活と社會生活とが調和し、或時は然らず。或時は母系中心の組織を成し、或時は男系中心となり、或時は一夫多妻の制を爲し、或時は一妻多夫の制を爲し、或時は雜婚し、或時は團體婚し、或時は家庭が公共的の一團體を爲して家父は其家族に對して生殺與奪の權力を有し、現時は私生活の一團體となりて一夫一婦を表面の正規となし、家族は私の共同生活を營むに過ぎぬ、夫れ此の如く家庭生活の變化多樣なりと雖とも、親子夫妻の共同生活、即ち家庭其ものは未だ曾て消滅しない、吾人は將來に於ても、尚ほ此自然的一共同生活の存續すべきとを信ぜざるを得ぬ、素より例外として、非家庭的生活を送る者が今日に於ても多く存する如く、共産社會に於ても多くの共同褓育所、共同養老所を設立するに至るであろうが、併し原則としては家庭生活を爲す者最も多いであろう。

共産社會に於ても家庭其ものは消滅せずとするも寧ろ異理に近い樣ではあるが、家庭生活の性質、狀態には多大の變化を來すであろう。蓋し共産制度にして完成せられんか、經濟上の理由に基きて閉鎖されたる門戸は全然開放せられ、人は眞に精神的の結合を形成するに至るであろう、從て或は趣味の投合せる者一團となりて大家族を成すもあるべく、或は夫婦差向にて靜かなる生活を樂しむもあるべく、或は親族のみならず、他族の人とも共同生活を營む者あるべく、或は多くの家畜を養ひて樂しむもあるべく、要するに皆な己が心のまゝに趣味に從て生活を立つるに至るであろう。

財産が社會の共有に歸する以上は家庭は其物質的中心力を失ふものと言ふべし、然れども此物質力は之を個人より見れば大なる束縛力である、共産社會に至りて此束縛力が消滅せんか、個人の自然の人情は純潔に發露するであろう、而して夫婦親子の愛の如きは最も強烈なる勢力をなして家庭の中心力となるであろう、而して其愛が高まれば高まる程、其感情は美しくなり純潔になるであろう。

我が子を愛し、我が妻を愛するは一種の私慾に過ぎぬとは從來吾等社會主義者の口から往々にして聞く所である、乍併、其愛が私慾なりや否やは兎に角に、此感情は決して排斥すべきものでは無い、否な寧ろ尊敬すべき美しき自然の感情である、寧ろ益々增長せしめたいと思ふ、之を私慾なりとして一概に排斥するのは、未だ自己の頭腦が今日の社會に於ける生活狀態より解脫することが出來ないとを表白するに過ぎない、今日の社會に於ては我が子、我が親、我が妻、我が身を愛するとは、他人を愛し、社會を愛するとと衝突するが故に、何だか私慾と稱して一概に排斥したくなるのである、然るに若し自己、自己の一族を愛するとと他人や社會を愛するとが決して衝突せんと言ふとになつたらドウであるか、此等の愛は皆な美しき天眞の感情として稱讃すべきものではないか。

果して然らば、家庭の中心力たる狹き愛と、社會の結合力たる博き愛とは、理想の社會に於ては決して衝突すべきものでは無い、否な、若し衝突する事實があるならば吾人は之を改革して相調和する樣な社會を實現せばならぬ、自然には總てに於て調和がある筈である。

以上將來の家庭に就て愚見を述べて見たが、併し、社會主義者の議論は未だ一定しては居ない、素より社會主義其ものに完成されたる社會組織案が無いのであるから、其一部分たる家庭に就ても勿論成案が有る譯では無い、唯だ大體に於て以上の如き方向に發展すべきものであると言ふに過ぎぬ、細かく觀案すれば、社會主義運動が時々に發達し變化し行く如く、社會主義の思想其ものも常に發達し變化して行くものである

▲本號要目▼

△共産社會の家庭……社說
△埴の小瓶（長詩）……白衣
△有明月（長詩）……素赤女
△婦人選擧權運動……外報
△婦人の社會主義觀……海外時事
△基督教社會主義……ツード氏
△空理光……南無百南無十讃人
△露國社會主義史……石川旭山
△農家と理科……增田操
△獄中消息……赤羽、山口
△放浪（ゴーリキイ）……尾折生
△漫言放言……思水漁郎
△故郷に纏縷……岡野活石
△わからないぞへ……孤舟
△色即是空……稲田氏、佐治氏

埴の小瓶

白衣

いづくとも　青の火影
ほの照りに　沈む一と間
たゞ一つ　埴の小瓶。

つと飛ぶや　紅の礫
埴がめの　胸を掠め
其日より　小痕一つ。

青火さへ　ほのに照る間
ひゞ痕と　にじむは酒
じめ／＼と　饐えにし臭。

埴瓶の　命の酒
ひゞを浸み　行方幽か
そと立つは　空か―知らす。

ほの搖らぐ　青の薄火
時へなば　瓶の命
おゝつきん　立つは何地。

有明月

素赤女

暗けれど　鏡の如く澄み
底ひなく　淵の如く靜み
空の空　あゝ大なるかな天。

ギラ／＼と　下界射る如くに
清くして　また刺す如くに
輝やく樣　いや氣高きかな星。

闃として　風霜聲を絶し
常盤木の　その姿は黒く
野の隅に　默して竚立む。

晩秋の夜の　長き眠り覺めず
人は尚ほ　闇に迷ひぬるを
唯さやかに　月のみ照りわかす。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

英國 婦人選擧權運動

▲去月廿二日の『大阪毎日』に標題の如き長文の倫敦通信が載て居たので、左に之を摘録する、其通信には婦人運動者に穏和派と急進派の二派ありて、屢々世の話柄に昇るのは此急進派だといふて居る、思ふに其急進派と云ふのは、社會主義の最軟派と稱せらる、獨立勞働黨の一派若しくは之と結托せる一派であろうと思はれる。

▲政府者妨害策●●●●● 此急進派の運動方法は之を約めていへば、何事に依らす政府を苦めること、始終此運動を世間の耳目から離れない様に廣告して居ることとである、少し前一時此急進派は大臣の住宅訪問策を取つたことがあつた、無論何處へ行たつて會つて與れる大臣はない、此時總理大臣の官邸を訪れた一人の妙齢の婦人は玄關拂を喰つた悔しさに自分で身體を玄關の鐵柵に縛り付けて聲の枯れるまでに絶叫して遂に巡査に取り除けられたことがある。

今の商務大臣ウインストンチマーケル氏がアバーヂーンで選擧運動を爲た時、同氏の戸外演説の場合には何時でも其傍に演壇を設けて徹頭徹尾鈴を振つてとうとう戸外演説を成り立たしめなかつた鈴振婦人もあつた。

各地の演説會に政府當局者の出場する處には乾度此妨害運動があつて新聞紙は殆ど毎日その報道で忙殺さる、許り

▲議會襲撃策●●●● 急進派の廣告法はマンマと成功したのである、デあるけれども段々世間も之に馴れて來て餘まり驚かなくなつて來たのと、モ一つは運動の目的は一寸も實地より進まない、政府の當局者は不相變馬耳東風で、彼等の希望する様に婦人選擧權法案を近き將來に議會に出さうなど、いふ約束は假りにも言はない、急進派は益激して來た、大會もデモンストレーションも古いので茲に議事室襲撃の大計畫をやつた。

期日は此間の特別議會の翌日と定つた、全軍一萬を擁して攻撃するさ□して殺氣トラファルガーよりホワイホールに溢ち／＼て倫敦は唯ヤー先噂ばかり、警察の方も殆ど他の仕事を止めて防禦に苦心、イヨ／＼その晩とあつた。

▲戒嚴令●●● 來て見ると驚いた、ウエストミンスター議事室附近は恰も戒嚴令を布いた様だ議事堂に達する道路は悉く警官を以て八重十重に固めて人馬の交通は全然遮斷されてある、殊に凄まじく見えたのは守備軍の先鋒には騎馬の警官が道を一文字に切つて押し寄する人波を喰留て居た事である、此日に防禦に當つた警官の數は實に五千人騎馬隊二百五十と號した之を以ても其戰の大範圍に亘れることが分る、流石の女軍も武器を持たないから戰ふ術なく終に其目的を達することを得なかつた、僕等は人波に揉まれて遠方から實は事あれかしと私かに待つて居たもの、、群集が騎馬に追はれて頽雪の如く背進する時は何となく動悸の高まるのを覺えたのである。

▲傍聽席の叫呼●●●●● 此稿を書いて居ると昨夕議事堂で一場の紛擾があつた事が傳へられた、報道に依ると昨夕八時半議會は徐ろに其議題を討議して居ると突然婦人傍聽席から絹を裂く様な聲を發して演説を始めた婦人がある。

「婦人に投票權を與へよ」大英國の婦人は投票權を要求す」「見よ、今の政府を、自ら自由權を叫ぶも其行は專制の暴主と同じ、何故に婦人の聲を聞かざるや」「議員諸君無益の論議を止めて此緊急なる問題を解決せよ」

一婦人は室も破れよと許りに此等の暴言を議員に振懸けて居る、とコヘ如何に一方の端から又もや第二の婦人が顯はれた「婦人に投票權を與へよ」「婦人に投票權を與へよ」恰もコーラスの様に此婦人が前者を助けて居る

スハ又もや一杯喰はされたりと用意の守衛時を移さず此奇矯婦人に近寄るとコヘ如何に鎖もて固く全身を傍聽席の全面を覆へる鐵條に結び附けてある（英國議會の婦人傍聽席の全面は動物園の鳥籠の様に一杯に金網が張つてある、）而かもその鎖の兩端にはパッドロック（錠）を附けて鍵を下してある、鎖を切るか金網を破るか乃至は身體を二つに切らねば此婦人を退場せしむることは出來ぬ、屈强なる守衛等の力爭して居る間にも彼等はしすましたりと許りに叫呼を續けて居る

「お前さんがイクラ騒いでも駄目よ。私の身體は縛つてあるのよ」

とばかりに守衛にまで罵り口を叩いて居る、とう／＼守衛は金網の一箇を破壊て鎖、金網プラス婦人を傍聽席外へ擔ぎ出したのである、最も嚴粛なりと稱せらる、英國議會に於て而かも婦人席に於て此騒動のあつた瞬間、議員の感想がドンナであつたか想像に難くないのである。

▲遂に傍聽席の閉鎖●●●●● 此騒動後間もなく總理大臣反對黨主領の注意で議長は嚴かに今後議會の傍聽席は男女子部と共に暫く閉鎖さる、ことを宣言した、殆ど前例のない事であらうと思ふ

▲選擧法案の運命如何●●●●● 終りに此婦人投票權に對する一般殊に男子の意嚮はドーであらうかといふに今直ちに斷定を下すことは難い、但し今期の議會で此法案が普通議員から提出された時一讀會採決の結果は非常な多數の賛成者があることを示した、即ち一讀會は大多數で通過したのである、然り彼等は餘り遠からざる將來に於て成功すると思ふ、蓋し此運動の眞面目の方面は最も興味を以て注意する價値があらうと思ふ

▲以上は通信記事中の要點である、通信者は此婦人運動に對して同情を持つて居ないので、隨分失敬な罵詈を加へてあつた、其等の點は右の中には省いた積りであるが、マダ其口吻が多少殘つて居る、然も最後の判斷に至ては彼も亦た自ら詐く事が出來なかつたと見える。

●清朝の急變

清國皇帝の死に續いで西大后逝かる、清國の全社會は爲に鼎の沸くが如く、蜚語風說紛々として飛來す、曰く皇帝、西大后は共に謀殺せられし也。曰く袁世凱と鐵良との確執遂に大禍亂を成さん、曰く南方の革命黨は忽ちにして北京を襲ふべし、曰く共和社會黨の首領孫逸仙は竊に船に投じてシンガポールを發せり、曰く日本在留の革命黨紛々歸國を急ぎつゝあり、曰く黃興、章炳麟等の革命黨領袖も革命の準備に忙殺せらる、曰く革命黨の暗號電報頻々として往復せらる、曰く日本政府は清國日本間の私電を禁止せり、風雲益々急にして極東の天地暗憺たり、近時新聞紙の報道稍々靜平に歸せるが如しと雖ども、是れ唯た表面を假裝したるに過ぎず、皇帝、大后一時の崩御は素より稀有の變事なり、然れども素と人生に免るべからざる死亡てふ事實が然く社會を動揺せしむる所以のものは何ぞや、夫の棟木を交替せりとて爲に家屋の動揺を來すの理なし、然も清國の棟木僅に交替せられて其柱壁も土臺も一時に動揺を初む、其れ土臺と柱壁とにして鞏固ならんか、一二一時靜平なるが如き觀を呈すと雖も、清國社會が大崩潰を來すべきは蓋し遠きに非ざるべし。動亂は厭ふべしと雖も、平民の幸福の爲には已む能はざらん。

●社會主義青年團の設立

金曜社解散し、同志會戰ひに疲れ、多數の戰士は獄に投せられ、都下の社會主義運動は晩秋霜枯の天地と共に暫時冬籠の支度をなし居る如くなりしが、青年空氣の同志は斯くてやは已むべきとて去月來「社會主義青年團」の組織に奔走し居りたるが、折しも「社會主義同志會」が本部を巣鴨村田氏宅に移轉せし爲め、其跡本郷金助町三十一番地を借り受けて茲に本營を構へたる由、長谷川、谷田、富山、東等の諸氏發起人たり

▲社告▼

本紙第三周年

▲明年壹月は本紙創刊第三周年に相當致します、學識も無く、才能も無く、加ふるに無資本なる吾等が、此せち辛き世の中に此三周年を迎ふるとを得たるは、自らながら聊か不思議の程なれども、是れ眞に同志諸君、讀者諸君の御誘助によるものと覺る時は、唯だ深き感謝を捧ぐるの外ありません。

▲就而は明年一月發行の第三十二號は之を三周年紀念號と致し、聊か諸賢に對して謝意を表したいと思ひます。

▲最も本社の方では未だ何等具體的の考案も計劃もありませんが、讀者諸君にして御注文もあらば御遠慮無く御申出之程願上ます、素より財政困難の事なればトテも眼に立つ様な事は出來ません。

▲又、全紀念號に對し御寄稿下さるなら、ドウぞ本月十三日までに御送附下さる様願上ます、年末にて印刷所頗る取込みます故、此位にせねばトテも定期に間に合ひません。

千九百八年十二月五日

東京府下、角筈、七三八

世界婦人社同人

クロポトキン原著
石川三四郎譯

パンの略取

一部金六錢
十部五十錢

是れ世界婦人第廿五號全面を埋めたるものゝ今尙は發本あれば讀者諸君の傳道用に御配布せられんとを希望する所以也、クロポトキンは無政府共産主義の大成者にして本書は即其主義を最も痛切に說論せる大著作なり、加ふるに全號にはクロポトキンが自叙傳によりて其曲折波瀾多き大偉人の生涯を序しあれば、一讀して此大主義を味ひ得ると同時に偉人の事蹟を學ぶことを得べし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

海外時事

婦人の社會主義觀

シカゴ十月十五日發行「基督教社會主義」雜誌はメーベル●アール●ホワイトと言ふ婦人の「婦人の社會主義觀」と題する長文章を揭載せり左に其要領を摘錄すべし、ホワイト夫人は、先づ「基督教社會主義」雜誌を讀みて同夫人に質問し來れる某婦人の手紙を揭げたり、其文中に曰く

「予は思ふ、正直なる基督教徒は最正最善なる意味に於ける社會主義者なりと、されど予の聞ける總ての社會主義者（及び予の讀みたる社會主義書）は單に一方面の狹隘なるものなる如く予には見ゆ。彼等は貧者に對する友愛を說けども、甚だしく富者を――唯だ其富者なるが故に――憎む」「社會主義に就て予が讀みたる所によれば、社會主義の同志は此主義を以て世界の全罪惡に對する萬能藥なりと考へ居るが如し、されど予は然く考ふる能はず、予は其と共に個人の上に改化の來るを要すと思ふ」

☆ホワイトは之に答へて曰く。

「此の如き反對論は普通の教會員の模型的言說なり、予之に答へんか、却て他の人の心を惑亂するの恐れある程なり」

而して、彼女は全編を四段に分け、其第一を「基督教は社會主義也」第二を「階級戰爭は友愛也」第三を「社會主義は萬能藥也」第四を「基督教は資本主義の下には不可能也」となして辯述せり、而して其第一段中に曰く

「故に予は確論す、寬大なる社會主義者は其自覺すると否とに係はらず、皆基督教の本性を具ふるなり、………而して疑も無く或る社會主義者は自ら無神論者なりと稱し、自ら宗教に相反せりと考ふ、然れども彼等は時に自ら次の如く言ふを發見すべし、曰く「主よ、吾等汝が饑えたるを見る時は汝を養ふべきか、汝が渴けるを見るの時は飲ましむべきか、吾等汝の旅するを見るの時は家內に招すべきか、裸なれば衣を進すべきか、又若し汝が病氣なるか、或は獄に在る時は救ひに來るべきか」而して王は之に答へて曰はん、「誠に汝等に告げん、汝等吾が同胞の少さき一人に之を爲すとも、汝等は其だけ我に對して爲せるなり」と

次に「階級戰爭は友愛也」てふ題下に曰く

「講師は、社會主義者が貧者に對する友愛を說けども富者を憎惡すと思ふ、是階級戰爭の全爭鬪の起る所なり、ロバート●ハンター曰く、社會主義者は階級戰爭を鼓舞する者に非ず、彼等は現存制度の下に於ては階級戰爭の免るべからざるを認む、而して彼等は之を禁止せんとに努力す、最初の萬國協會は其宣言の始めに曰く、「勞働階級解放の鬪爭は階級的の特權と獨占の爲めの鬪爭に非ずして、平等の權利義務と、全階級制度禁止の爲めの鬪爭なり」と、社會主義の下には總ての人が勞働者たるべく、總ての勞働者が共有すべく、而して各人が平等に生產機關の利澤を受くべし」

次に「社會主義は萬能藥也」の段に入りて曰く

「基督教は總ての煩勞に對する萬能藥也、社會主義は基督教を經濟上に應用したる者也、故に社會主義は總ての經濟的害毒に對する萬能藥也、歷史上第一番に基督が建設せんとせし神王國の物質的基礎を形成するものは、即ち集產的平和生活なりと」

次には「資本家主義の下には基督教は不可能也」との題下に曰く

「競爭制度が繼續する間は、勞働者は其勞働の結果を一部盜奪せらる、……若し此國の各個人が明日悉く潔められたる基督者となり、而して基督の命令に絕對的服從せんか、勿論此盜奪は消滅すべし、唯だ其時は選擇すべき二途を存す、集產的共和生活を建設するか、將た產業が粉碎せられて野蠻の昔に逆歸するか、則ち是なり。私慾と貪慾の支柱無くんば競爭制度の上に建てる文明は一年間と雖ども存續すると能はず」

●流罪婦人の悲劇

革命の血に燃えつゝシベリアに流されたる露國一少女あり、此程脫走を企てしがコヴノと言ふ所に於て捕縛せられ、同地方裁判所に引き出されて次の如き激烈なる辯論をなした。

「流罪人が西伯利亞と露國との界を通り越したなら、必定恐ろしい刑罰に――三年の懲役に處せられるであらうとは、素より承知して居ります、其よりは死んだ方が遙かに增しです、此の危險を知りながら私は西伯利亞から脫げやうと決したのです、私はアの陰鬱な隔絕な所に職業も無く勞働もせずに居るといふとは、身體上より道德上より到底忍ぶとが出來ませんでした。私の居た所には漁夫が居りました、貧乏人も居りました。クれど彼等は何な仕事でも私に與へるとが出來なかつたのです。男子は漁獵で僅かの錢を取りますが、女は饑えて死ぬのです。彼怖ろしい氣候は私の弱き健康を傷けました。私は死亡に近き始めたのです。寒と饑との爲に死の手は私に迫て來たのです。」

裁判所は遂に判決を言渡した、憐れなる少女は少も心怖を動した氣色無く、之を聞いた。言渡の刑は實に「三年間の懲役」であつた。

●社會主義とドラマ

ドラマの評論家として有名なる井リアム・アーチャー氏は思へらく、社會主義の下に於ては戲曲は消滅すべし、蓋し芝居は「不義犯罪、害惡、不安及び頑迷」等に其立脚地を存すればなりと。フェービアン日曜學校に於ける講演中にアーカー氏は曰く「予は素より、社會主義が一般に藝術と兩立すべからずと言ふの甚だ無稽なるを認める。唯だ建築、繪畫、彫刻、裝飾等の藝術、及び恐らくは序情詩及び音樂等の藝術は永久に發達するを得べし。予は又た、社會主義の制度に於ては如何なる芝居も芝居的藝術も消滅すべしといふものに非ず。唯だ予は思ふ、特殊なる演劇的事件と感情との大部分は遂に其生命を失ふべしと。」

されど偉大なる藝術は決して其物質的材料に拘はらず。一の理想が實現せられし時其理想は既に理想に非ず。社會主義は今日吾人の有する多くの理想を實現する手段に過ぎず、而も一たび其理想にして實現せられんか。吾人は直ちに他の高尙なる理想を希望するに至るべし。而して明日の理想を組成するに至るべし。されば社會主義の下に於ても、ドラマに對する希望は尙は存するなり。

●杜翁と農民

ヴォログダ縣內なる某村寺に於ては、住職の說教中にも係はらず、全會衆が悉く堂外に出で去りたる事件あり、其は何故と聞けるに住職が烈しくトルストイの教理を攻擊したる爲なりと言ふ。其後農民等は其反對の傾向に會いて告げて曰く、吾々は吾々の尊崇する人の攻擊を聞かんと教會に來れるに非ずと。然るに和尙の答は、次の日曜にも亦た其說教を反復すべしといふに在りきとぞ云ふ。

●匈牙利の言論自由

匈牙利社會主義者は其政府を惡むと甚だし、其ボスニヤ或はヘルツェゴビナに權威を振ふ合同主義を嫌ふと甚だし、蓋し彼等は普通選擧の問題に於て極めて無情なる詐欺を受けたるなり、されば彼等は去る十月の木曜日、ブダペスト府內に同時に二十一箇所の反對集會を催したり。而して同日九時頃、平和的示威運動を行ふ爲めルューアンドラシーに於て大群衆の集會を催せりき。然るに警察は何等の猶豫も無く直ちに其大威力を用ゐて之を攻めぬ。彈丸は群集中より發射せられ、警官亦た之に應戰したり。かくて其紛亂漸く鎭まるや、多數の社會黨員は負傷して街路に倒れ殘され、而して更に多數の社會主義者は警官の手よりて獄牢に投せられたり。

個人消息

▲渡邊博君　筆を執せて高崎市なる阪東日報に聘されしが、同紙が休刊の運命に遭はれし爲め、郷里水戶に歸れり

▲神崎順一君　渡邊君に次で高崎に赴くの準備をなせしが、前項の次第にて見合せ

▲赤羽一君　最初の刑期滿ちて一先未決囚となりしが再び赤衣の人となれる由

▲山川均君　去月十九日控訴判決あり、第一審の如く懲役二年に處せらる

▲大須賀里子君　山川君と共に判決を受けしが、刑は懲役一年なれど五ヶ年間の執行猶豫を言渡されたり、本紙發行の時は出獄の人たるべし

▲神川松子君　出獄後、靜養の爲め久しく郷里廣島に在りしが、此頃上京、柏木にト居せり

▲田中正造翁　先々月來谷中村に留りて相變らず日夜暴政と闘ひつゝあり

▲西川文子君　近々の中上京、新產の赤兒を懷にして千葉なる良人を慰問する由

▲松尾卯一太君　去月十九日熊本より上京

▲中洞仙輔君　四谷荒木町廿七番地布施氏方へ移轉せり

▲臼倉甲子造君　君の郷里埼玉縣より、社會新聞社並びに本社に麥粉芋各一俵宛を寄贈せらる、厚情何を以てか酬ゐん

▲鈴木重倫君　先頃丸善の店員を辭して小石川小日向臺町世光社に在り、爾後基督教社會主義の爲に努力せんと言ひ居れり

▲加藤時二郎君　歐米を漫遊して去々月歸朝せり、其社會黨觀察談は本邦の社會主義者を益すると大なるべし

▲幸德秋水君　去月十五日二三同志と誘て瀧野川紅葉見會を開く、會者三四十名、久々の集會なれば皆久濶を序して互に無聊を慰したり、されど當日警犬の警戒は甚だ嚴にして、秋風殊に蕭殺たるを覺えたり

▲阪本清馬君　久しく廣島にありしが、此頃上京して再び幸德氏宅に投じたり

▲大石誠之助君　去月中旬上京せる由

▲松崎源吉君　久しく東京監獄にて刑の執行を受けしが、去月初め千葉監獄に移送せられたる由

▲章炳麟君　支那革命黨の機關民報の署名人として新聞條例違反に問はれ、去月廿六日東京地方裁判所に於て公判開廷本月十二日判決言渡ある筈なり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

基督教社會主義（一）

米國Henry F. Ward師講演
石川旭山生譯

一、緒言

社會主義は此頃多く人の注意を牽く樣になつた。又、益々注意を喚起すべき運命を持て居る。歐羅巴に於ては既に過去二十年間に、政治上に多大の建設と破壞とを行ふた。我國に於ては、其投票力の獲得、其新聞の發達、其立法上の勢力增加、其思想文學上に及せる著しき影響等は總て國民生活の上に勢力を增加しつゝある。社會主義を誹謗するとは一般演説家間の流行となり、而して其攻擊の熱心の度は之に對する演説者の無知の度に比例して居る。ブルック氏は談て曰く『社會主義者に對して烈しき攻擊を加へた某經濟學者の言ふのには、余若し余の市中の才判官、實業家、銀行員、又は才氣ある婦人等と共に六夜繼續して晩餐を共にし、而して其主張する社會主義撲滅策を聞かんか、予は之が爲に多大の倦怠を催して遂に社會主義の味方となるであらうとの事であつた』

さて、クリスチアンといふ語と社會主義といふ語とが、一致結合せぬといふ何か正當の理由があるであろうか。併し、此問題が解決せらるゝ前に、吾等は先づ明瞭に社會主義とは如何なる意義を有するものなるかを決定せねばならぬ。

有力なる某記者は、今日社會主義の意義を了解せんのは是れ自ら其智力の遲鈍を表白する者である、と言ふた。社會主義は四ッの異りたる方面を具へて居る。即ち、經濟組織、社會哲學、社會運動、及び政黨是である。近頃の文士は、皆な明白に、實際社會運動としての社會主義と、經濟組織としての社會主義との區別を認めて居る。ヒルキツト曰く『人類社會の將來は哲學の上の考案計劃に現はさるゝもので無く、經濟的發達の傾向の中に表示せらるゝものである。社會主義は決して完全なる社會構造案を提拱するものでは無くて、唯だ社會の漸次的進化の實際的理法を示すに過ぎぬ』と。ブリスは曰く『社會主義は、其形式は無限に變化すべき應變性を具へて漸次的に適用せらるべきものにして、之に依て社會は土地と資本とを綜合的に所有し、一切の貨物を協同的に處理せんとする所の確定せる原則である』と。又、ウエブは曰く『社會主義は社會運動の原則であつて、完成せる社會組織の考案では無い』。其理論に反駁を加ふるは困難のことでは無いが、其廣大なる世界的運動に反抗するとは困難である、而して、今ま先づ審判を施すべきは實に一の『社會運動としての社會主義』である。

二、正義の叫び

マルクスの經濟論は生産分解の上に存立する。其根本的主張は『勞力は一切の富の原因である』と言ふとだ。是れ夙に英國經濟學者の唱へた處である。次の主張は、賃銀鐵則施行の下に於ては勞働は常に單に第二位に置かれて、僅かに心身を保存する最少限度の必要物を受くるのみだと言ふにある。其勞働者が生産する量と、受領する量との差額は、皆な資本を支配する所の資本家に押領されて了ふ。而して是れ即ち資本の起原たる有名なる『剩餘價格』である。之を補償せんが爲に、即ち『勞働者獨り富を生產す、勞働者獨り之を得ざる可らず』との綱領が出來る。是れ、總ての資本は生產機關の共有に依て社會化せらるべしてふことを意味す。『器具を勞働者に屬せしめよ』とは大なる叫びである。蓋し、機械の發明は器具を資本家の手中に集注したからである。此解說の經濟的價值如何は吾等の關する所で無い。マルクスの著作は社會主義の經典となつて、今や高等批評家の手中に委せられてある。社會主義者中には、マルクスの教理には制限を加ふべき點の多きことを認むる所の有力なる修正派の運動がある。併ながら、基督教が之に連結せらるゝ限りは、是れ實に人類の德性＝其ハートに正義の叫びを存する＝を認むる所の經濟學であることを證明するのである。放任主義の舊經濟學、個人主義の經濟學は、其舊學問の經歷に依て生活する二三の人の保護する大學に於ても拋棄せられた。蓋し其說は現代の商業的生活の不公平に對して不道德なる基礎を與へるのである。而してマルクスの經濟學は之を撲滅した　〇十年前にイリーは言ふた、殆んど總ての大經濟學者は皆な一種の社會主義たる產業的民主々義の信者であつたと。英國の一靑年經濟學者は曰く今や吾人は總て社會主義者なりと、學者社界では、此マルクスの解釋の一切の所說を承認すると言ふ風で無く、『經濟學は道德的基礎に依て所決せらるべき人間關係の上に存立す』てふ根本的原則を承認するに至つた。是れ實に基督教文明の爲の勝利であるが故に吾人は社會主義に對して感謝するとが出來る。

三、社會主義と私有財產

社會主義經濟學のお陰で、彼の基督教の名を以て生產機關共有の主張に對する非難攻擊の聲を聞くと稀なるに至つた。此反對論は、常に社會主義は私有財產制を破壞すべしとの事に基くものである。是れ實に己が無智より遂に陷りし虛妄誤謬である。彼等は社會主義者に對して些かの損傷をも負はしむるとが出來ぬ。彼等をして彼等自ら語らしめよ。『社會主義は富の私有を禁止しやうとは說かぬ、寧ろ私有の制度を擴張して且つ一層確固たらしめやうとする、生產手段の私有は最少限度に減殺せらるゝと同時に、生產貨物の私有は大に增加し擴張せらるゝであろう』マルクスとエンゲルスとが發行した『共產黨宣言』は明白に記して曰く『共產主義は何人にも社會の生產物を私用するの權能を付與しない、蓋し之を付與するは、是れ此私用によりて他人の勞働を押領する權能を付與する所以なれば也』基督教の名に於て之に反對する者は、彼の『私有財產は罪惡に基き、理想的生活は友愛的分配を意味すてふとが、千五百餘年の間、基督教國の輿論であつた』と云ふ記臆を斷滅せねばならぬ。

四、社會主義下の自由

生產手段の共有に對し、基督教の名を以てする反對論は、即ち之に依て自由を束縛し、發意と刺激とを殺ぎ、從て基督の主眼たる個人生命の發展を妨止すると言ふのである。されど此反對論者は社會主義の共有主義と其結果、及び、之を排斥する現在の工場組織の弊害に就て無智なると甚だ明である。社會主義が此項目を揭ぐる所以は實に勞働者をして其失へる自由と發言權とを回復せしめんが爲である。一九〇四年の綱領に曰く、

『社會主義は個人の自由を要ふて急速に且つ繼續して增加する所の打擊より人民を救出せんが爲に起る。社會主義は各國の勞働者の自由の爲に存立し、又全人類をして充分なる自由を得しめんが爲に存立す、……吾人は信ず、吾人は唯だ、全人の自由を生ずる所の經濟的自由の地盤を準備すべき者なることを』

機械の資本家的所有に對する反抗の大理由は、之が爲に人々を肉躰的要求の絆にて縛るの外、資本家には何等の用をも存せずと云ふにある。吾人は賃銀奴隸を見る。是れ既に究極に達した事實である。器具無ければ、人は他人の命ずる値に働くか、然らずんば餓えねばならぬ。數百萬の失業者は常に押し合つて居る。賃銀勞働者と生命との間は極めて薄き氷を以て支へらるゝのみである。直ちに來る饑餓の恐怖は、已む無く勞働者をして、其提出されたる條件を承諾するに至らしむる而して其合法的なる權利を奪はるゝ所の契約にも署名せざるを得ざらしむる。若し自己獨立の爲に動かんか忽ちにしてブラックリスト（危險人物の仲間に記入せられて雇主の注意を促す）せらる。斯の如くにして、曾て獨立獨步の勞働者も、無獨立にして且つ無神經なる工塲勞働者の中間に引込まれるのである。

五、產業に對する刺激

資本の獲取は、人類の自發的個人的發展の唯一動機なることを推定する所のものは基督教の如何なる部分であるか？　身を委ぬるに充分なる地位を有せざりし者は、自己の發意と發展とを以て之を資本取得の機會より來る所の强き刺激に起因するものと爲せしか？。此の如き反對論は『吾等をして食ひ飲みて幸福ならしめよ、明日吾等は死んで了ふじや無いか』と敎ゆる所の宗敎に屬する。されど彼の、人生最高の發展は勤勞と犧牲とに於て發見せらる。我が生命を棄てるものは即ち之を發見する者であると、敎ふる所の其宗敎は、決してソンなとを言はぬ。資本所有者の剩餘價格押領に依て不義が遂行されつゝあるとの抗論や、生產機關の協同的所有管理を要求する叫呼や實に人生最高の動機を豫想せしむる。彼等は生產の物質的材料よりは寧ろ人道を高調する。故に單に所謂自然法として說かるゝ個人的經濟組織よりは遙かに基督教徒の同情を牽く。

（第五面第四段中央に續く）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

空裡光（四）

南無百無第十國人

神

「天地不仁、以二萬物一爲二芻狗一」老子

「心の淸き者は福なり、其人は神を見ることを得べければ也」馬太の五の八

「詩曰、予懷明德、不大聲以色、子曰、聲色之於以化民、末也、詩曰德輶如毛、毛猶有倫、上天之載、無聲無臭、至矣」中庸

「神は萬物の內在的原因なり、萬物以外に在りて之を生ぜしむる超越的原因に非ず」（スピノザ）

（一）

宗教家口を開けば「神は愛なり」と言ふケレども愛とは如何なるものなるかは分明で無い。聖書にも「爾の隣を愛みて其敵を憾むべしと言ることを有は爾曹が聞し所なり、然ども、我なんぢらに告ん、爾曹の敵を愛しみ、爾曹を詛ふ者を祝し、爾曹を憎む者を善視し、虐遇迫害るものゝ爲に祈禱せよ」（馬太五の四三、四四）とある。作併其「愛み」、「祝し」「善視し」「祈禱せよ」とは如何なる意味を有するか、其內容は分らない。思ふに、愛とは己の欲する所、之を人に施すといふに歸するのであろう。即ち其標準は「己れ」にある。併し、其「己の欲する所」は何であるか、是れも吾々自ら不分明である 是れ前にも揭げた「履し霜堅氷至」の格言が能く說明する所である。吾等の心內に「物慾の際」ありし結果、其漸次に積重なりし「霜」の痕が幾度と無く履み付けられて遂に今では「堅氷」となつたのである。既に吾等が本來の面目を失ひたる爲め、眞の「己の欲する所」が分明なくなつたのだ。從て此「堅氷」となつた所の吾等の愛は決して眞の愛と言ふとは出來ぬ。言を換へて謂へば、未だ眞我を開發しない吾等には「眞愛」無く。眞我を會得しない者には神愛を知ることが出來ないのだ。然るに漫然と「神は愛なり」と教へられたなら、吾等如き凡夫は、忽ち自己「堅氷」的の愛を以て神を忖度する樣になる、是は甚だしき誤謬と言はねばならぬ。徒らに神は愛也とか、神は義也とか、或は神は義也とか言ふのは、實に人自ら神の前に障柱を立てるのである。吾等は須らく先づ自ら虛無に反りて自己の天眞を見ねばならぬ、然る後、吾が天眞の「欲する所」も分明になり、然る後天地萬有の眞相も分明となるのである。支那の神秀大師が「身是菩提樹、心如明鏡臺、時々勤拂拭、勿使惹塵埃」と言へるは實に其妙境を詠じたものであろう。吾心にして明鏡臺となれば天地の神の眞相は鮮明に吾が心理に宿る。而して「身是菩提樹」の自覺に達する。基督教で言へば「神の子」の自覺に達するのだ。處が馬太福音書には前揭の文章に續けて次の如く言ふて居る。

「如此するは天に在す爾曹の父の子とならん爲なり夫れ天の父は其日を善者にも惡者にも照し雨を義き者にも義からざる者にも降せ給へり。爾曹おのれを愛する者を愛するは何の報賞かあらん、稅吏も然せざらんや。……是故に天に在す爾曹の父の完全が如く爾曹も完全すべし」（馬太五の四五－四八）

天は日を照し、雨を降し、風を吹し、霜を降し、雷を轟し、地を震はす、此の如き天の父の愛を知る事は甚だ六ヶ敷ことである。「父の完全が如く」するは素より實に難中の難である。

（二）

英國のドラモンドは其名著「人の向上」の中に於て、生物界に人類の進化の原理は「愛」である。「愛の名は即ち神である」と言ふて居る。是は愛と言ふ形式を客觀した結論に過ないので、愛其ものゝ理想的實質を示して居ない。素より愛の形式は「己の欲する所、之を人に施す」に在る。之を客觀すれば二人の者が相和合するに在る。而して此和合といふ形式は禽獸草木にも人類にも一貫したる形式である。處が前にも言ふた通り「己の欲する所」が人々皆異る、從て愛の實質に種々なる差別が出來る。和合にも種々なる和合があると言ふことになる。要するに吾等自ら眞神を會得して後に非されば、神の愛は分らないのだ。

キリストは此神を呼んで「アバ父」と言ふたが、此の如き境涯に至れば、愛の、義の、善の、正のといふ樣な思慮分別を絕して居る。神虛無なり、我虛無なり、唯だ其彼我虛無裡の靈光が相融和して此に「アバ父」の聲が起るのである。

神とは何ぞや、我が虛無裡に映じたる宇宙である。眞我の見たる宇宙である。虛無の靈光に照されたる自然である。

（三）

科學者は五官を以て宇宙を見やうとした。哲學者は頭腦を以て宇宙を解かうとした。宗教家はハートを以て宇宙に抱かれやうとした。五官を以て宇宙を見たる科學者が多く物質主義者となるのは當然の結果である頭腦を以て宇宙を解かうとした哲學者が、多く冷淡なる理窟屋となるのも當然であるハートを以て宇宙を抱き宇宙に抱かれやうとした宗教家が「神は愛なり」と言ふに至たのも亦當然の事と言はねばならぬ。而して宗教信者の多くが女々しくなり優柔軟弱となりて、剛强の風骨に乏しいのも亦自然の勢である。さて此等の人々の爲せし所、素より何れも皆不可なりとは言へないが、然も何れも、皆完全とは言はれない。蓋し何れも各々天地人生の一部面を會得するの方便に過ぎないからである。且つ何れも最上堂に達する第二義門に彷徨して居るからである。

スピノザは「神は萬物の內在的原因なり」と言ふて居る。作併我等は如何にして其內在的原因に接することが出來るか、吾等は先づ虛無に反らねばならぬ。虛無に反りて始めて我裏に天眞の靈光が照り入るのである、照り出づるのである。此虛無裡に透徹せる心靈こそ實に我が爲に神の眞影を映し出す所の明鏡臺である。基督が心の淸きものは福なり、其人は神を見ることを得べければ也といふたのも是れであろう。心の淸き者とは即ち我が心が天眞に反りし者のとであろう。浮世の塵、物慾の埃を掃つて虛無の靈明を宿せし者の事であろう。見よ、月と日とは或は相信號せず、星と星とは或は相呼ばぬであろう。然れども總ての物は生ける心靈に呼應するでは無いか。

（四）

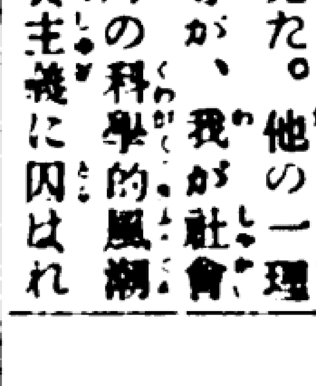
斯くて世界は始めて有意義となる。老子は「天地不仁、以二萬物一爲二芻狗一」といふて居る。天地の萬物に對する恰も不仁なるが如くである。然れども、一物と雖も、決して無意義には生じない。實に萬物を以て神聖なる芻狗と爲るのである。又、中庸には「上天之載無聲無臭、至矣」と言ふて居るの然れども、是等の語は尙ほ未だ思慮較量の理路を辿りて神殿の周圍を徘徊して居るの趣が見える。基督が「アバ父」と呼ぶに至つて始めて神殿の扉開かれ、人は玲瓏たる神の懷に抱かれたるの觀がある。

基督教社會主義（四頁より續き）

六、社會主義と物質主義

さて轉て、社會哲學としての社會主義を見るに、妙に基督教と相反する點があろうか。若しありとすれば其は物質主義的なる點である。是れ、人道的理想的なる經濟學は其自身物質哲學と結合すべしてふ奇論の一である。最も之には二箇の理由がある。其一は教會、殊に獨逸の教會の社會改革に對する態度に基く、社會正義の爲に戰ひ居りし人々は、教會が彼等に無同情なるのみならず、却て反對せることを見た。他の一理由は、初期の社會主義領袖等が、我が社會哲學に基く運動を爲せし當時の科學的風潮より生せし未熟粗笨なる物質主義に囚はれしと是れである。此等二理由の爲に、彼等は、教會と宗教と神とを破壞するを以て自己の使命なりと信ずるに至つた。されど此等は一時の狀態であつて、物質主義は最早社會主義の本性では無い。マルクス派のブオルトマンは、此頃歷史上の物質主義に關して一書を著したが、其中に、宗教は人類生活に永久不動の事實であると書いてある。社會主義大首領の一人たるマロンは其將に死せんとするの前、歐洲社會黨に熱烈なる勸告を公にして、社會黨の運動を精神的ならしめよ、セメて一般科學と同等水平線まで向上せしめよ」と言ふた、我國（即米國）の全國大會にては、「社會主義は一私事たる宗教と何等關係する所無し、又、基督教徒の團體が社會主義と物質主義と何等關係する所無きを明示しつゝあり」てふ說を採用した。

然れども、普通の物質的人生哲學が科學の本質的部分でも何でも無いに係はらず、マルクスの經濟定命論の結果、尙ほ社會主義の本質は物質主義にありと信ずるものも多い樣である。今、之を簡單に記せば「人類社會の各時期の政治的、社會的、宗教的建設は各時代の經濟組織によりて決定せらるてふ思想」である。共產黨宣言」の序文中に記して曰く「歷史の各時期に於て、之より必然的に生ずる所の生產、分配、及び社會的團體の流行的形式は、時代の政治的並びに智識的歷史を建設し又た說明する基礎を成す」と。基督教徒の社會主義者は、說明して、社會主義は、人を物質主義哲學に放下せずとも、尙ほ承認され得べき大眞理を包有すと言ふて居る。（アト二頁にて終り）



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

露國社會主義史(三)

石川旭山

▲經濟的變動

吾人は此に少しく眼を轉じて、農奴解放以後に於ける經濟的變動を序すべし、農奴解放條例の實施以來、無資產の平民は驚くべき增加を表はせり、露國統計家ニコロン教授の計算によれば聖ペテルブルグ市民にして一八八四年中政府の救助を受けたるもの二十二萬九千人、即ち全市民の四分一に達せりといふ、ステツプニアクの記する所によれば、當時田舍住人の三分一、即ち之を實數に示せば二千萬の人民は全然無一物の勞働民たりと言へり、抑も如何にして此の如き現象を呈せしか、吾人は此問題に對して一瞥を拂ふことを吝まざるべし

第一に當時露國の地方住民中の十分一は全然土地分配の要求權を有せず、是れ歐米人並びに日本人の理會し得ざる事件なれば一言すべし、如何なる人民が村落の土地を分有せざりしか、一に勞働力を失へる老人二に未だ勞働力を有せざる小兒を有せる孤婦三に農奴解放の時に大地主の家僕たりし人民の如き即ち是れなり、此等の人民は村落自治體の一員たることを得ず、從て其村落共有の土地を分配せられざる也、其外三種の人民は村落に入りて實際に勞働(商工業の)に從事すると雖とも其村落土着の民に非ざるが故に、貴族若くは外國人と同樣の取扱を受ける也、此種の人民は解放令以後各村落に溢れて貧民の數は著しく增加したり

次に其新來者に土地の共有を許せし所に於ては村落住民の所有土地を細分するの結果を生じたり、蓋し新たに村落の公民となれる人は從來の住民と同資格にて其土地を分有するの權利を與へられしを以て各住民の保有土地は漸く狹小となり、當時、一年間の生活資料を貯へ得る程の土地を有する家族は百に一戸も有らざる程なりき彼等は解放令の際に全然耕作地のみを要求せしを以て牧場を有せず、而して彼等は從來農作肥料を採取せる家畜を養ふ能はざるに至り、かくて耕作其ものも亦た困難なるに至りたり

▲被解放農民の負擔苛重

農民の負擔は又た當時甚だ苛重なりき、露國に於ける最高貴族階級は租稅によりて奢侈を極めたり、而して其公收入は實に主として農民階級の負擔する所なりき、被解放農民が其交付せられし土地に對して國家に支拂ふ年賦金は彼等に取りて最上の難事なりき、ステツプニアクの記する所によれば、當時歐露西亞の三十七縣に於て、從來獨立の農民が支拂ふべき租稅は、其土地の平均純所得の約九割三分より少からず、又曾て私人所有の農奴たりし者の納稅義務額は實に其土地純所得の十九割二分餘の多きに達せり、されば彼等は其所有地を保持せんと欲せば、勢ひ其土地の所得以外に於て之を補充せざる可らず、而して其補充の道は唯だ賃銀勞働の苦役に服するの外無きも、然も此の如きは到底堪ゆる所に非ざる也、又た彼等にして假令其土地を棄て、他村に轉ずるも其負擔を免るゝに非ず、義務は彼等の行く所に附隨して離れざる也、此くて其階級は土地無所有の移住よりも困窮の人民となり、都鄙に溢るゝ乞食群は漸く多く、七十一縣廳の調査によれば、當時(一八八七年頃)乞食の數實に三十萬の多きに達し、其內十八萬二千人は土地を有せる農民たりき、然も其計算は頗る低く算量したるなりと云ふ

かくて土地の兼併は起れり、農奴解放以來、各村落に起りし小高利貸は即ち其兼併者なり、此の高利貸は多くは小金を貯蓄せし普通の農民なりき、最も時には他所より來りて村內に店或は工場を開きし新來者も尠からざりき、生活難に困める農民等は假令自ら其土地を所有すとも既に二重三重の債務を負ふて最早堪ゆべからざるに至れり、かくて各村落の農業は事實に於て小數富豪の掌中に分割せらるゝ事となり、多數の農民は習れざる手工勞働によりて生活する外亦た道無きに至りぬ、遂に舊來の美風たる村落共同生活は破壞せられて西歐諸國に行はるゝ個人所有權制度は到る處に侵入し來れり、更に之と同時に、解放令發布以前に全非常なる繁昌を爲せし大家庭組織は此に全然粉碎せられて、從來平和の樂園たりし家庭生活も亦た寒風の吹き荒む所となりぬ

▲軍隊內の革命鼓吹

アレキサンダル二世の殺害は平和の革命を絕望に歸せしめたり、政府の反動は猛烈なる勢を以て人民を壓迫し來れり、改革者も亦た一步も退くこと能はずして、決死の戰鬪に突進せり、されど組織的武器を有せざる通常市民の運動は軍隊を有する政府に對して甚だ脆弱なりき、故に革命家は軍隊內の傳導鼓吹に力を注ぎ始めたり、革命的精神は急激に軍隊內に弘通せられぬ、首都守衞隊中には既に活動の準備すら整ふに至れり、然も其一大爆發が當に聖ペテルスブルグを震撼せんとするの時、俄然其首領連の捕縛となり、此に活動の大頓挫を來せり。之と同時に諸方に於ける一揆の計劃も亦た不幸にして失敗に歸し(一八八二—八三)皇帝暗殺の計劃亦た成らざりき、此時に當り政府の人民に對する迫害は增々甚だしく、一八八二年ストリアルニコフ將軍が南露地方に行へる「同時捕縛」の如き蓋し其極に達せりと言ふ可し、人民の憤激は白熱度に達せり、遂に革命黨は同年三月三十一日ストリアルニコフ將軍に死刑を宣告して同時に之を暗殺したり、かくて政府の「白色恐嚇運動」は革命黨の「黑色恐嚇運動」よりも一層猛惡の狀を呈するに至りぬ

政府の壓制急激なるに係はらず、革命黨の秘密印刷所は曾て消滅に歸せず、一八八三年より、一八九〇年に至る間に於て政府に發見せられたる印刷所二十有餘に達せり、ナロドニア、ボリア(人民の意思)ナロルニー、ベレナマル(純社會主義團)ゼ、ユニオン(組合ー平和的社會主義の同盟)アルバイテル、ツアイツング(勞働新聞)等は當時革命黨の發刊せる新聞雜誌なり

▲革命運動の方針一變

されど此時よりして革命運動の方針は又た漸く一變せんとするの傾向を現したり、蓋し彼等の有力なる首領連は或は刑死し或は追放せられて彼等の運動は漸く統一を失するの形勢となり、且つは政府の警戒益々嚴酷を極めて運動の自由無く、從來の方針にては到底其革命的希望を成就する能はず、との思想彼等の間に一般に湧起し來り、社會民主々義的の改革を平穩に一步一步的に遂行せんとの主張漸く有勢となり、從て茲に諸團體の大合同を爲して以て先づ政治的自由を得ざる可らずと唱導するに至りぬ、更に此時に當りて新たなる有力なる革命要素は勃興し來れり、他なし、急速なる產業發達の結果として俄かに都會に溢れ來れる工業勞働群是れなり

陰謀、叛逆、暗殺の時代は漸く去りぬ、團結、ストライキの時代は新たに來れり、資本家對勞働者の爭鬪は政治的爭鬪と相應じて生起するに至れり

▲未曾有のストライキ

一八九四年アレキサンダル三世崩して二コライス二世之に嗣ぐ、一八九六年モスコーに於て即位式を擧行す、而して聖ペテルスブルグの勞働者は同年を以て未曾有の大ストライキを斷行したり、此ストライキは政府者を驚駭せしめしこと大なりき、四萬二千の勞働者は一時に其工場を去りて勞働に服せず、彼等は自ら强固なる團結を保有せるのみならず、又た未熟工勞働者の大多數と堅き盟約を結びたり、而して有力なる機敏なる首領の指令の下に其步調を整へたり、されば同市の警察及び憲兵隊は能く之に拮抗し得べくも見えざりき、且つ未熟工の勞働者中一萬九千人は自己の所得賃銀を以て彼の罷工者を扶助せんことを宣言せしのみならず、彼等自らも機を見て起たんとするの形勢明白となれり、政府の恐怖せるも道理なりき、總ての新聞はストライキの記事を掲載することを禁止せられぬ、罷工者の集會と罷工者の爲にする醵金とは同じく嚴禁せられぬ、されば萬事は秘密に運動せられたり、捕縛、投獄、追放は續々として行はる、されど多大の資金は內外國より醵集せらる、「勞働階級獨立同盟」と稱する秘密大結社は創立せらる、罷工者の要求は不道理に非ざりき、即ち其要求は從來十四時間の勞働を十二時間となすこと及び即位式三日間に對しても賃銀を支拂ふこと是なりき、雇主等は此の如き輕少なる要求を見て承諾せんと欲したり、然るに警察は却て承諾を阻止したり、而して警察自ら之に干涉して、勞働者をして饑餓に迫らしめんとの計劃を立てぬ、捕縛と防禦とは益々熾烈を呈しぬ、されど勞働者の勢力は意外に强大なりき、時に皇帝の入都の期は近接し來りて政府の苦心も容易ならざるに至りぬ、茲に於て警察は「罷工者が再び就役するまでは其要求に對して決して顧慮せられざる可し」てふ告示を勞働者の住する各町內に掲示して勞働者を欺瞞したり、

(以下七頁へ續く)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ストライキは賃金欠乏の結果として全然の勝利を得るはざりき、されど彼等が間接に得たるの利益は決して尠からず、彼等は團結の訓練を得たり、彼等は團結の勢力を覺知したり、彼等は實に自己權利の伸張に關して大なる實驗を爲せり、而して又た同國各地の勞働者に好模範を示せるなりき

勞働者のストライキに次で、同市大學々生のストライキ起りぬ、一八九七年には各地の大饑饉となりぬ、宗教上の壓制は漸く甚だしく、無抵抗主義なるゾツホヽルゼン教徒に對する壓制虐待は（一八九八）西歐諸國を警駭せしめぬ、有名なる專制主義者ポピエドスチエフ即ち其辣腕を振へるなりき大學生と政府派に警察との軋轢は漸く甚しく、一八九九年大學高等學校等の男女學生一萬三千人の大ストライキは爆發したり、一九〇〇年及び一九〇一年に亘りて諸地方に學生の大運動起り、遂にコサツク兵の鎮壓する所となりぬ、捕縛、投獄、幾千、幾百なるを知らず、日として憤激の聲を聞かざる無く、日として鮮血の迸しるを見ざる無かりき

▲官民の衝突斷續たり

政府の保守的反動は又た漸く嚴酷なり、團結の必要を知り、自主の精神を養ひ來れる勞働者は自ら組織ある活動に向つて其準備を急ぎぬ「猶太人勞働組合」は有力なる團體となれり、波蘭人も亦た團結の運動を起しぬ、一九〇一年十二月には「社會民主勞働黨」と稱する團體のエカテリノスラウに於ける一大示威運動を見ぬ「自由を永久にあらしめよ」「專制主義を撲滅せよ」とは則ち彼等の絶叫なりき、カルコフに於ける勞働者と學生とは亦た協同して蜂起したり一大喊叫の中に高く赤旗は飜りぬ、而して警官、コサツク兵と角鬪する四日にして壓止せらる、此の如き運動は恰も燎原の火の如く蔓延しモスコウより、セベアストプルグより、全露國各地方に及びたり、形勢既に此の如し、曾て穏和黨なりし自由主義者すら、今や即ち革命的手段を採らざる可らざるに至りぬ

「奮闘隊」々員の爲に暗殺せられしシピアギンに次で新内相プレウエは有名なる壓制家なりき、彼等は如何なる殘虐手段、陋劣手段をも厭はずして、學生、勞働者、其他苟も進歩思想を懷抱する者を迫害したり警察官の多數なる、其勢力の强大なる、未だ曾て彼が時代の如きを見ざりしと言ふ、キシネツフ、ホメル、其他の地方に於ける猶太人の虐殺は彼が暴政を最も能く表明するの事實とすべし、此に於て一般公衆の憤激増々甚だし、且つ夫れ此時に當り極東の風雲漸く急に、日本との戰端は既に仁川沖の日露艦隊の衝突より開かれぬ、露國民の激昂愈々甚だし、蓋し此戰爭を以て明白に不利不正のものと爲したれば也、かくて露國は一般に動亂を始め、フオン、プレーヴエが一身も亦た不安なること能はず、遂に一九〇四年七月二十八日「奮闘隊」員の爲に暗殺せられたり

▲ガポン教父の運動

東邦の戰爭は今や當に酣なり、戰域漸く延張し來りて動員の欠乏増々急なり、露國全地に向て動員令の下ること頻りなり、社會は最も有力に全國の人心を皷激せしめたり、アルメニア、ワロルデア、殊にポーランドに於て政府反抗の大示威運動は起りぬ、之に相呼應して各地方各都會に於て殆んど全階級を擧て起つに至りたり、事態は愈々重大なり、政府も今更の如く恐怖の間を開き、今は兵力を以てするに非ずんば到底之を鎭壓すること能はざるの形勢となりぬ、彼の一時世界の耳目を聳動せる教父ガポンの運動は實に此時にあり、彼は從來勞働者をして自ら團結せしめ、平和的方法を以て其境遇を改善せんことに努力せり、然るに革命の風雲當に危急に迫り、其團體の勞働者も意を決して起たんとするの氣勢あり、彼は乃ち之を平和的に指導するの目的を以て自ら其團體を統率して宮廷に訴願を提せんと欲したり、是れ從來幾多の改革者が計劃せし所にして、又た悉く失敗したる所なり、ガポンが宮廷に對する信任も亦た誤れり、即ち人民が皇城に集へるの時、政府は之を待つに實に殘酷なる武力を以てせり、鮮血に塗れし老若男女三千の傷者は、城前の街路に算を亂して倒れぬ、全國人民の憤激は爲に猛火の如く興り、烈しき大ストライキは之に應じて諸方に起りぬ（完了）

本紙被告事件（判決）

判決

大分縣南海部郡東中浦村百四十八番地平民
當時東京府豊多摩郡淀橋町字角筈七百三十八番地　新聞紙發行兼編輯人

神崎順一
明治十五年一月五日生

右ニ對スル新聞紙條例違反被告事件ニ付キ檢事未永晃庫干與審理判決スル左ノ如シ

主文

被告順一ヲ發行人トシテノ所爲及編輯人トシテノ所爲ニツキ各罰金貳拾圓ニ處ス

押收品ハ差出人ニ還付ス

理由

被告順一ハ東京府豊多摩郡淀橋町字角筈七百三十八番地世界婦人社ニ於テ新聞條例ニ依リ發行スル「世界婦人」ノ發行兼編輯人ナルトコロ明治四十一年九月五日發行ノ同新聞第二十八號ヲ編輯發行シ其紙上第四頁ニ「秋夜夕話」ト題シ幸田命作ナル署名ノ下ニ「吾人ガ書ヲ讀ミ力宮ハント欲シテ猶モ官ヒ傚ハサルモノナクンダルハ最モ大胆ニ最モ眞摯ニ而モ頻々ニ喝破シテ曰ツタ吾々人間ガ此社會ニ出ヅルヤ最初ノ敵トナルモノハ即チ親ト主人トデアル然リ親ヘ子ノ敵デアル、主人ハ婢僕ノ敵デアル若シ諸君ガ眞ニ正義ヲ愛シ眞ニ自由ヲ欲スルナラバ乞フ先ヅ彼ノ親ト主人トヲ最初ノ仇敵ト覺セ」ト論ジ更ニ進ンデ「吾々ヲ生ンダ所ノ親ハ如何ニ吾々ヲ日夜使役スル所ノ主人ハ如何ニ金錢ノ威ヲ藉リテ吾々子弟ヲ抑壓スルコトハ無イデアロウカ束縛スルコトハ無イデアロウカ」ト云ヒ尚「終リニ予ハスタンダルニ代ッテ繰返シテ曰フ諸君ニシテ眞ニ眞ノ自由ト眞ノ平等トヲ欲スルナラバ乞先親ト主人トニ向ツテ速ニ反抗ノ聲ヲ擧ゲヨ」ト論ジ以テ現今ノ社會ニ於ケル親子主從ノ關係ヲ非難シ社會ノ秩序ヲ壞亂スト認ムヘキ記事ヲ掲載シタリ

以上ノ事實中被告順一ガ新聞紙條例ニヨリテ發行スル世界婦人ノ發行兼編輯人ナルコト並ニ同新聞第二十八號ヲ編輯發行シ同時ニ最初ノ敵ト題シ前記ノ記事ヲ掲載シタルコトハ被告ノ當公廷ニ於ケル其旨ノ自陳及押收ニ係ル世界婦人（四一年押第一四五〇號ノ一）ニ其旨ノ記載アルトニヨリ之ヲ認ムルニ足ル而シテ右ノ記事ニ於テ口ヲ他人ノ言ニ藉リテ「吾々人間ガ此ノ社會ニ出ヅルヤ最初ノ敵トナルモノハ親ト主人トデ、アル親ハ子ノ敵デアル主人ハ婢僕ノ敵デアル」ト論ジ又「吾々ヲ生ンダ所ノ親ハ如何吾々ヲ日夜使役スル所ノ主人ハ如何金錢ノ威ヲ藉リテ吾々子弟ヲ抑壓スルコトハ無イダアロウカ」ト反問シテ親及主人ノ金錢ノ威力ヲ以テ其子弟婢僕ニ臨メルコトヲ暗示シ最後ニ「諸君ニシテ眞ニ眞ノ自由ト眞ノ平等トヲ欲スルナラバ乞先親ト主人トニ向ツテ速ニ反抗ノ聲ヲ擧ゲヨ」ト論斷シタルハ要スルニ其趣旨トスルトコロハ現今社會ニ於ケル親子主從ノ干係ニ於テ親及主人ハ金錢ノ威ヲ藉リテ子弟ヲ抑壓スルモノナレハ子弟婢僕ハ宜シク親又ハ主人ニ對シテ反抗ス可シ之レ則チ自由平等ヲ得ル所以ナリト云フニ歸着シ子弟婢僕ノ其親又ハ主人ニ對スル反抗ヲ指導スルモノニシテ之ヲ公ノ刊行物ニ掲載スルハ社會ノ秩序ヲ壞亂スモノト認メサルヘカラズ

法律ニ照スニ被告ノ各所爲ハ新聞紙條例ニ依リ處罰スベキモノナルモ犯罪後ノ法律ニ依リ刑ノ變更アリタルヲ以テ刑法第六條ニヨリ其輕キモノヲ適用スヘキモノトス依テ刑法施行法第二條刑法第十條ニヨリ其輕重ヲ量ルニ舊法ニ依レハ被告ノ發行人トシテノ所爲並ニ編輯人トシテノ行爲ハ孰レモ前示條例第三十三條ニ該當シ倘數罪倶發ナルモ同法第三十五條ニヨリ舊刑法ノ數罪倶發例ヲ用イズ各別ニ其刑ヲ科スヘキモノニ該リ之ヲ新法ニ照セハ被告ノ發行人トシテノ所爲及編輯人トシテノ所爲ハ孰レモ新聞紙條例第三十三條及刑法施行法第十九條第一項本文第二十條本文ヲ適用處斷スベシ右二個ノ所爲ニ付キテハ同條例三十五條及刑法施行方法第三十二條第一項ニ依リ刑法併合罪ノ例ヲ用ヰズ各別ニ其刑ヲ科スベキモノニ該ル則チ被告ノ各所爲ニ付キテハ新舊法ノ刑ニ等シキヲ以テ犯罪當時ノ法律ニ從フベキモノトシ前記舊刑法ノ各法條ヲ適用處斷シ押收品ハ沒收ニ係ラサルヲ以テ刑事訴訟法第二百二條ニ則リ差出人ニ還付スベキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

明治四十一年十一月五日

東京地方裁判所第一刑事部

裁判長判事　立石　謙輔
判事　長谷川道也
判事　濱田　賞一
裁判所書記　菊池　武一

右謄本也

明治四十一年十一月六日

東京地方裁判所裁判所

書記　柳川　正直

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

農家と理科（承前）

増田操

元來住友家の經營に係る別子鑛山四阪島精錬所の煙害に就ひて愛媛縣下越智周桑新居の沿海農民は大會を開らき除害運動方針を決し毎日數萬の農民大擧して住友鑛業所に押寄せ稻の生育期間精錬を中止せずんば鑛業所を破壞し鐵道電信を切斷し爾て精錬の出來ざるやふにすべしと決議をなし作業中止の談判を開らきたり全家に於ては稻穗開花期中十五日間煙突より噴出する鑛煙を直接燒竈上棚より放散せしむることゝすべしと決答し農民よりは剏主張を繰り返し要求したるも强硬の態度を持して承諾せず茲に於て農民は住友家の頑强なるを看取し强硬なる團体を組織し根本的解決を計るの必要を認め目下夫々運動中なりとか彼の工場より吐出する煤煙が農作物乃至森林に及ぼす毀害は單に我邦ばかりの問題ではない工業の盛んなる歐米諸國にても疾くに一大問題となり獨逸國が一ヶ年に森林のみが受る損害は百二十萬圓地價の減少三百五十萬圓に達し尚ほ損害は年々增加の傾きあるより種々防禦に苦心し其一策として工場法に依て煙突を高くする方法を規定したる處往來煙突の低き時は其影響する所甚だ狹かりしも煙突を高くしたる結果却つて煙害を廣く波及することゝなり遂に議を叫ひて此を出すに至り昨年伯林に開かれたる萬國農事大會に於ても一大問題となり種々なる議論を提出し作物の最も危險なる時即ち花の咲く時又は植換へ時は工場の煙を出すことを禁じ又雨の降る日の如き煙の放散惡しき時は多少の制限を加ふべしと云ふ議論は頗る各國代表者を動かしたるもの、如しと要するに煙害事件は農工の衝突を來たすものにして今後大に研究すべき世界中の大問題である是れての勢壓や又現代經濟制度の賜である。

凡そ農作物は時として有害の物質に接觸して生活の障害を來すことあり斯の如き物質を一般に毒物又は有害物質と云ふての部類に入るべきものは皆に眞正の毒物として極少量なりとも危害を及ぼすべき物質を云ふのみならず土壤及び空氣中に含有せる普通の物質と雖ども其量多きに過ぐる時は危害を及ぼすことあり之れ等を併せて稱するものである彼の酸素は空氣中の主成分として植物に必要なれども其分量普通の割合よりも増減することあらば生活作用を妨害することがある而も天然の狀態にありては空氣中酸素の量が著しく増減するが如きは殆んど有り得べからざるものなれば其有害作用は即ち人工的に屬するのである酸素の缺乏は生活作用を休止せしむるものにしてこれに依つて植物の呼吸作用困難となるは深く埋沒せられたる根若くは空氣の缺乏せる土壤中に掘りたる種子の狀態を見ても判る又根の吸水力も酸素の缺乏に依つて著しく障害を來すものなるも植物體の運動務に原形質の運動の如きは酸素の缺乏に依つて一たび休止し、更らに適量の酸素を與ふれば其運動もまた元の如くなるものである空氣中に含有する炭酸瓦斯は植物の同化作用に缺くべからざるものなれども其量增加するわらば生理上の障害を來たして作物の生長は勿論葉綠の成生及び同化作用を害するものであるされど天然の狀態に於ては被害を及ぼすべき量にまで集積することがないからこれ又多くは人工的に來るのである其他植物の中毒を蒙るは多くは人工的に毒物を植物に接觸せしめ爲めに直接に生活作用を阻害せられ若くは妨止して以て中毒せしめ或日死に至らしむるものなりとも其中毒の徵候は其毒分が直接の原因となつて一般の枯死の徵候と全じく原形質の收縮、細胞緊張力の消失、葉綠の分解に依り黃色の黃色素を殘留し時としては死したる原形質若くは細胞膜の褐色に變じてこれに依つて遂に植物の全體をして黃色若くは褐色となるものである例へば工場より吐出する瓦斯又は毒分を含有する水等の植物に接觸したる場合若くは病蟲害を驅除豫防せんが爲めに有害物質を施用したる時の如きそれである

彼の各所工場の煙突より吐出する煤は强て農作物を害するものでない煙の中に含有する亞硫酸瓦斯が害を及ぼすものなれば石炭中に硫黃分がなければ其煙は害となるまい硫化物の煙及び石炭煙には亞硫酸瓦斯の含有することが多いてこれに依つて其近傍の植物は皆な害を被ふる石灰爐又は瓦爐の如きは其害少ないこれ石灰若くは粘土は能く亞硫酸瓦斯と化合して離れざる性あるからである煉瓦場近傍に於ては其煙の波及する限りは植物を害するものである四阪島精錬所の鑛質がどんなものか知らないが我邦の銅鑛は硫化銅が多いと云ふ果して硫化銅なりとせば其銅鑛を燒くと亞硫酸瓦斯となつて煙を吹き出すものであるこの煙にして植物に觸れんか中毒の徵候は先づ葉の凋萎に初まり褐色を呈し遂に死するものにして其害の原因は少なくとも一部分は蒸散を妨げ水分の循環を妨害するに依るのである日光は其害甚しからしむる作用もあり又水分多き時は乾燥せる時よりも其害又多し若し此煙が雨又は霧と合すれば卽ち硫酸となつて地上に降り後ち晴天となれば水分は蒸發するも硫酸は殘りて猛烈なる毒素となるのである亞硫酸瓦斯は斯く水分に逢へば硫酸に變じ易いものなるが故に冬季霧などの農作物の上に永く積る時に際しての煙を被ふるに於ては亞硫酸瓦斯及び硫酸の集積するてと多く隨つて植物を害することも又多い其煙の濃薄に依つて植物の被害に差等あるは勿論である

獄中消息

▲山口義三君（千葉監獄）

暫く御無沙汰した君は別に變りはないかね僕も無事で懲役に服してゐる、此頃は下駄の鼻緒をこしらへるとはよして、經木眞田を編んでゐるのだ、僕には心配し玉ふなコンナひよわい身體でも、どうやらこうやらヤッて行けるから、茲に一つ君に報じなければならぬことがある、それは十月一日から新刑法の實施と共に監獄の規則が變つて手紙のやりとりと面會は一月一回それも親族の者でたつた一人に限られてゐる、僕は出獄するまで、モウ七回手紙がかけるのだが、いつも君にばかり手紙を出す積りだから君も其積りで二月に一回手紙を呉れ玉へ僕は今から一年三ヶ月間、君の手紙しか見るとは出來ないのだから君、石川、幸德、白柳、上司、村田の諸氏に逢つたら僕に手紙を呉れても駄目だといふことを傳言してくれ玉へ、僕は手紙は貰はなくとも諸氏の厚情は感謝してゐるから、君、僕の樣な幼少の時、故鄕を出た者は國の親族とも關係は極く薄いから君を親族の代りにして僕の出獄後の引取人にしてゐるから其積りでゐてくれ玉へ、それから君に一つお願ひ申したいのは本を買つて差入れて貰ひたいのだが、君僕の保釋金はもう受取つたろう、受取つたら御手數だが左の本を買つて送つてくれ玉へ、井上哲次郎著朱子派の哲學、王陽明派の哲學、古學派の哲學、この三册は新佛敎で廣告を見た、鷄聲堂で賣つてゐる、新佛敎もお蔭で每月頂戴してゐるいろ／＼面倒なことばかりたのんで甚だ相すまぬ（山内高藏氏宛）

▲赤羽一君（東京監獄）

耶蘇傳有難う、[illegible]かね、僕は實に[illegible]した故か二三日前より頭が少々グラ／＼する未だ前途が永いのに今から之れではならぬと[illegible]がセントポールで叫んだ「余は此處で降參しては成らぬ」I will not succumb here と云ふ言葉を思ひ出しては氣を勵して居る始末だ。「世界婦人」はどうなつたね、之れからどうする積りだね。僕は今「死」と云ふ問題に就て考へて居る、そして死に對して何時でも「余は準備せり」I am ready と呼び得る樣にしたいと工風最中だ、左樣ならぬと僕等は未だ本當の人間とは言へないね前に出した封書は受取つたかね。今日は雨がしめ／＼としてイヤな天氣合此れから裁判所に行くのだ。パリーコンミユンと勞働の火を賴むよ急がんでも宜いが。（廿二日）

▲赤羽一君（東京監獄）

四十七日通算になつたので、十三日赤い衣服を着て、二日滿期放免、處でアトの事件が確定せぬので又更衣をした、僅斗りの處面倒だが人心は變化を好む、之れも宜からう。君の健康はどうだね、此間裁判所で見た時の君の顏色は餘り宜くなかつたが、身體に故障は無いかね大事にし給へ。たつた十三日赤い衣服を着て、僕の體量は六百目減つた、之れでは十ケ月も居ると身體が無くなつて仕舞ふ勘定だ。讀みては考へ、考へては讀む、之れが僕現在の日課だ、霜枯れで世間の人は忙しからうに、山陽の所謂る人忙我閑の境に安居する僕は實に罪人以上だ。監獄に運入つてから僕は小說讀みになつて仕舞つた、杜翁の「戰爭と平和」ツルゲネフの「バーヂンソイル」ゴルキーの「スリー、オブ、ゼム」シンクレアの「メトロポリス」ゾラの「モーテー」等を讀了して今ユーゴの「九十三年」を讀んで居る之れは昔讀んだ本だが、今又見ると更に新しき趣味を感興を覺へる、今度は逸見君の送つて呉れたツルゲネフの「スポーツマン、スケッチ」の番だ。監獄の此頃の夜は淋しい、まだ蟲の聲、犬の遠吠、夫れにタマサカ聽ゆる士官學校「マーメース、トレインエング、スクール」の生徒の唱歌の聲が死のやうな寂寞に僅の小波を立たせる丈けの事だ。種々な思が胸に迫つて來て寢られぬ、夜は鐵窓の隙間から見ゆる天上の星るんと夜深く沈默せる事がある。世の中に我が物と云ふものは一つも無い、身體も生命も思想も皆な社會のものだ、ツマリ萬物同根一族、四海皆兄弟だね、かう思ふと「死」と云ふものは何でも無いね、自分の生命と云ふ「我」があれば死ぬのは惜しいが、之れさへ取つて仕舞へば決して死は恐るべきもので無い、世の中で自分を顯はしたいと「我」があるから人は嘗死ぬのをイヤがるが、既に我と社會と同ヒであつて見れば、僕が「我」を顯はさずに死んでも、僕の思想感情は必ず大なる社會の何處かに潜んで居る幾年一日社會の誰かが僕の「我」を顯はして呉れるに相違ないと思ふ、僕の言ひたい、行ひたい、書きたい事も廣い世の中の何處かで、僕の分身たる兄弟姉妹が何時か必ず成就して呉れる、かう思ふと「死」は我れに於て屁の如し、萬事タッターツしか無い生命だ、無闇にさう安く進上しては成らね。世界婦人は矢ッ張り出して居るかね。（福田、石川宛）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

小説　放浪　九の下

ゴーリキイ著　尾資生譯

私は彼に窃盗とは如何なるものであるか、其の說明を求めた。

「お願いだから、靜かに默つてゐて呉れ給へ、君の頭蓋は板片のやうだ」と卑賤い音調で說明した。

「君なんか、必と死ぬまで盗をするんだらう、それが生活か？、さうだ！、默つてゐ給へ！」

私は更に彼を怒らすを恐れて口を噤んだ彼は窃盗するのが、今度で二回である、以前吾等が黒海にゐた時、彼は希臘の漁夫の懐天秤を携帶した、其時も兩人は格闘せんばかりに爭ふたのである。

「サア、行ふか？」と彼は、兩人の仲が和いで、調停の出來た時に云ふた。

遠く足を運んだが、日增にシャクローの不平が殖え、奇妙な眼色をして私の方を見るのであつた。ダタウルの峠を昇り、ダルヤールの深谷を通過した時、突然私に斯う云ふた。

「一日、二日過てはティフリスだ、チエ、チエ」と彼は舌皷を打つて滿足の色が輝いた。

「アヽ、我家に歸着る、嬉しいな、――君は永く逗留するかね、旅に！、温泉にも行ふ…………ハヽヘ、充分食つてやらう……ヘハヽ、澤山！、澤山食いたいて、時に云ふてやらう　罪を謝して、悲しいとが多かつたと、種々の人に出會つたと、放浪人は善良な國民であると、會たらルーベルやヂウヒアン（中等の物品）を與る、と父に云ふてやらう、放浪人を一人連れて來たから酒を呑して呉れと！、君のとを父に話さう…………而して彼は兄弟のやうな人で、能く種々面倒を見て呉れた、種々教示て呉れた、私を勵まして呉れた、犬…………私を養つて呉れたのだから、彼に父上から御顔を貸し下さい、養つて下さい、今年中養つて下さい、今年中…………來年も、亦來る年も、來る年もと云ふてやらう、マキシム君、君は聽いてゐるか？」

私は彼の話を好んで聽いた、此の瞬間に於ける彼は全く無邪氣で、小供のやうで、而して彼の話は私に非常な興味を與へた、それはティフリスに私の友人が一人もゐないので、冬が眼前に迫つて――旣にダメウルの峠で吹雪に襲はれたからだ、而して私はシャクローに多少の希望を屬してゐたのである。

兩人は急いで步いて、イベリーンの古の首都であつたメツヽヒエトに達た、愈々明日はティフリスに乘込むのだ、五ヴェルスト隔つて彼方に高加索の首府を望んだ、壓迫するやうに眼前の二個の山の間に横づてゐる吾等の旅行は終であるよ！、

私は快活に喜んだ――シャクローも同樣、彼は魯鈍な眼色で頭を垂れ、絕えず餓たやうな、歪面をして腹を抱へながら道の側を延つた、彼は途中で慎憚なく素拔けば、不謹愼にも引拔た生の蕪菜を食たのである。

「君は知つてゐるだらう、――僕はグルジーンの貴人であるとを――こんな襤褸を着て醜陋しい姿をして町中を歩く譯には行かん、…………さうだ、日の沈るのを此處で待つてゐよう、マア聽け給へ！」

吾等は破れた建物の壁に凭れて、寒風に震へながら煙草に火を點けて終の一吹を嫌らし始めた、露西亞街道からは烈しい、肋骨の間を吹貫くやうな風が吹き、シャクローは其處に蹲つて悲しげな歌を齒の間から、喃々唸り、私は温かい室と水身を選ぶ生活を歛めて、定住の生活に入る愉快を想像してゐた。

「行う！…………」とシャクローは決心したうやな顔色をして喚んだ。

既う暗くなつて、町は燈を點られ、一歩づゝ進むに從て美くしくなり、町を挿挾んでゐる。谷間の暗から燈光が洩て居た。

「オイ君！、其の手拭を與給へ――頭を包むんだから、…………でないと知人に見付かる…………必つと見付かるに違いない！」

私は手拭を與り、兩人はオルギン街道を步いてゐたが、シャクローは何か自りで喃いてゐた。

「マキシム君！、彼處に馬車鐵道の停車場…………フェリイスキャフセ橋があるだらう、彼處に坐つて待つてゐ給へ！、僕は此家に一寸寄つて、友人や兩親の樣子を聞て來るから…………」

「疾く來給へ！」

「一寸とだ！、直き來る！」

急いで暗くて狹い横街を曲つて、消えた…………永久消えて了つた、殆ど四ケ月間苦樂を仭にした友人に、其後一度も出會はなかつた、然し私は理き微笑を浮べて、屢々彼は善良な者であつたとを回想した。

而して彼に親て學んだ――それは人間の審智よりも生活の審智が常に深遠で濶大なとである。

（了）

田中翁近信

△十月三十日

御無事にて候や、當方俄然亦取込となり、歸縣後日夜寸暇もなく、何とも呆れる事のみに候、委細は追々

△十一月十日

ヤナカ問題は最初より違憲問題です、瀦水の文字、已に法律に無し、已に無くして此亂暴を爲せり、前說の不出來は取消し、更に破壞の事を爲す政府と政治の存在せるに付ては…………

△十一月十五日

果して詐欺師、瀦水池の文字は何んの法律にもなし、人民を引出す法文も無し、さればは是全然の詐欺遂行の破憲なり、大至急堤防者に御派へ御救援を願ひ申す、大至急不取敢此分申上候、此上は何分にも

放言漫言

肥水漁郎

一

人あり、人爵を求めて得ず、乃ち我に天爵ありといふ。是れ痩我慢のみ、內心私に人爵に戀々たる所あればなり、天爵の一語は人爵に對して始めて存在するものにして、人爵を望まざるもの故らに天爵を口にするの必要なからむ。

更にまた、美人を見て化粧せる觀蔽器なりと罵る者にして、故らに路傍の花を指して之を家の美人なりといはゞ、此人遂に初めより美人に意なしといふを得ざる也。

二

虛榮！　そは燦然として形外は美なり、されど中は空なるのみ。虛榮心に驅られて銳意半生のエネルギーを費せし人も、冷けき死神の手一度到れば、全じく一箇の形骸と化するに非ずや。あゝ虛榮の子よ、中天にかゝれる虹を仰ぎて、そが中に潜める珠玉を取るとて走る狂人を嗤ふ勿れ、畢竟するに狂人と卿等とは同一サークルの人たればなり。

三

所謂紳士淑女と稱するの輩、貧民の膏血を絞りて得たる金錢を以て徒に虛榮虛飾を競ふ。其態まつ嗤ふに足る。誰か鄙雅なる流行服を着けたるが爲に紳士となさむ、誰をか燦然たる黄金の腕環を嵌めたるが故に淑女とせむや。よし待合の女將卿等を目して紳士となし、路上の乞食立ん坊の靈卿等を以て淑女となすも、卿等に於て何かわらむ。唯卿等が心の潔白を求めよ。見よ希臘のソクラテースは縕袍弊衣破帽、加之跣足にてアテンの街路を步行したりしを以て、千古の哲人たる能はざりしか。更に見よ、貴女は桑園に桑を摘みしが故に淑女たる能はざりしか。

四

黄白一度溶ましむれば、堂々たる政界の怪傑も動かすべく、赫々たる學界の俊秀も節を枉ぐべし。柳眉艶容一度媚笑を見せば、持律の名僧も五戒を破るべく、一世の英雄もなほ捕虜となし得べし。

五

ローマ曾て、戰に敗れて償金をガリアに拂ふの時、ガリア人等各々償金を計る秤の分銅の上に其佩劍を投じ、以て重量を增さしめて曰く「敗北者は不幸なるかな」と。現社會に於ける勞民は卽ちローマ人にして資本家は卽ちガリア人なり。

六

森僧衝先曰く、「有錢佛作沙門、有與新作沙門」と、今の世の佛僧にして然らざるもの殆ど幾何ぞ？彼等は信仰の爲に僧となりしに非ずして、食はむが爲に佛門に歸せし者なるを奈何せん。かゝる僧のみ多き今日、佛教の盛大は到底望むべからざる也。

七

猿よく芝居を演す、然れども饅頭を見れば乃ち止めて噛りつき、似而非紳士よく容くれども、黄白を見れば忽ち其正體を現す。兎角鍍金は剝げ易きものなり。

八

昔、エデンの樂園に、イブとアダムとは智惠の果を食ひて墮落せしと聞く。今の世に智惠の果を與ふる者は教育者にして、之を頂戴するものは男女學生なり。宜なるかな、彼等が滔々として墮落し行く事や。

九

裸體畫は更にも言はず、繪葉書に描きてもてはやさるゝは女なり、價値なきは男なるかな。

女に服從はあれど、男は服從なるもの聞たる例なし。意久地なきは男子なるかな。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

故鄕に縋纏

岡野活石

僕の成功を樂んで居る故郷の叔母が、長い疾患で、寢たり起きたりして居るから無理算段して見舞はうと出掛けた。

早稲田に居る從弟の奴が十一時頃の汽車で行くと、午後二時の汽船に間に合ふといつたので十一時三十五分で大塚を發つ。日暮里で乘り換えやうと降りて見たら、土浦行きは十一時十六分で往つてしまつてる次ぎのは二時十分だ、馬鹿々々しい、さうとて引返す譯にも行かぬ、北風に吹かれながらカムレードを讀んだ。

土浦に着いたのは五時近く、汽船發着所に馳け附けて聞けば、潮來行きはもうおりやんせんと吐す。人を馬鹿にするやうな物の言振りも癪に障る、明日の一番は五時だといふから、今度は用心して發着所の直ぐ近所に宿る。

二階へ案内される。眺望は大變好い見渡す限り黄茅白葦が夕風に戰いで居る、入口は薙刀の樣に見える、思を水天髣髴たるあたり一抹の薄烟に似たるところに走せると今宵一夜を此所に過ごすのが如何にも口惜しく思はれる、裏の窓を明けると、網を干したやうに筑波が横がつてる、その側に加波が昨日わたり削つた鉋の跡のやうに薄れて居る。曾ては東陲自由の精氣凝つて此山となつたかと、思はしめた、今その氣を受けてる筈の水戸男子は却つて自由思想壓迫の道具として、其所此所の警察から重寶がられて居るに過ぎぬ。

ヤット歸りの汽車賃位持つて來たものを此所でシコタマ捲上げられたら進退惟れ谷まる譯だ、シカシ江戸ッ子だお茶代として大枚二十錢を奮發する、二三年前銚子で一杯やつたことがある、その味が忘らない、今日もあれば宜いと樂んで居たら不漁で何もありませんと來て落膽してしまつた、明朝早いからお會計をそれから、御辨當はといふから、辨當は入らない、會計はいくらかと聞けば宿料は廿五錢だといふ少々呆れた、御仕は此の御辨當のことで半ばだといふことだ。

暫くすると、御退屈樣でもご洋服姿を二人連れて來た、六疊へ二人、道理で餘り安いと思つた、一人は縣の屬官樣で、も一人郡衙の書記樣は早稲田の行政科を卒業したといふ若いハイカラ、これでも成功した方だらう。

御先へ御免蒙つてセンベイ蒲團にくるまると御二方の談話は、同僚の誰れが昇つた、彼れが降つた、こうして、上官の氣に入つた、あゝして貶されたいふ樣なことばかり、滔々として盡きるときが無い。

容易に眠れない、ウトウトするとブーと汽笛が鳴り出す、起きて仕度をしても下ではグングン寢て居る、汽船からお客は無いのかと起こされる誠に呑氣なもんだ。

上等の船賃は六割ばかり高い、身分不相應だが、お客の二人に敗けるのは業腹だから上等へ飛込んだ、母親に連れられて六ッばかりの子供が、頻りに動き出したので、自分もヂットして居られなくなつて、立つて外を見ると、東京よりは暖いのか、但しは常盤木ばかりなのか山は皆緑りだ、水も緑りだ、只無數の漁船の帆のみ白い、どれもくゝ長い綱で對岸の山を引張るやうに見える。浪も無い、雲も無い。

その子供の家族は東京から土浦へ移つて來んと鹿島は土地が安いといふので、畑を買つて養蠶をやるんだ、といふ可成りの資本家らしかつた。

十時頃着いた叔母は思つたよりも快い叔母の家はチヨットした地主だ、從妹が毎日酒を飲ます、叔母が小言を與れる、然し叔母さん、僕に取つて酒は唯一の慰藉で、伴侶なんだといふ解つたかどうだか。

染返したけれども、ちうだか何だかの羽織を着て行つたもんだから叔母は早く七子の羽織でも着て來るやうになれといふ拵いて呉れれば一番早いんだのに、僕はそんなら來ない外は無いと無茶をいふ、實は從姉の良人の居るところではそんなこと曰へぬ譯があるんだ

近所の人々が淋しからうとお世辭を曰つて呉れる、淋しいことは無いが、何だか沈んだ樣な氣がする、希望の無い生活としか思はれぬ、活潑々地の修羅の巷から逃げ延びて來たやうだボーンとしてしまふ。矢張ドンガンの都が宜い、矢叫び、喊の聲を聞きながら計を畫して居るやうだ。

叔母のところに五日ばかり生里へ行き村落荒廢の事實を目賭して今更らに喫驚した僕の近親の内でも古い分家といふ家が影も形も無くなつて、その後は麥畑となつて居る、姉の家の殿堂ども見まがうばかりなのがドロンと消えてる總べてこれ二年以來の現象だ、そして乃公のいふことなどには耳を傾けもしないで醫學士になつた友や、海軍少尉になつた友の成功を羨ましがつて居る、頑迷眞に憫むに堪えたりだ。

丁度東京芝居が出來てるこて親類の奴に引張つて行かれた征張りの舞臺は久しぶりである。千代萩伊達評定をやつて居た東京芝居をすさまじい大切が鎌倉三代記、時姫の熱烈な心情には感心した、あれが鎌倉時代の婦人だらう、今の自然主義は輕佻浮薄で厭だ、併聞す天下の婦人諸君一家の敵をラブし、ラブの爲めに親をも殺さんづく位わりや、しかしその後で自害せよとはチト酷だ、村郎野嬢は何と感づつたか、ヤンヤと囃やし立てゝる。

叔母の村で石油エンヂンを購入して米麥搗を業と非る者が出來た、寒村僻地まで機械が攻め寄せて來るんだ、

僕の村の村會で小學校移轉を決議して一萬圓近く村民は負擔せしめらるのださうだそこで校舎所在地及びその附近の字々は猛烈な反對運動をやつて居た、レボルトの精神は津々浦々まで滿ち充ちて居る。

翌午後二時發の汽船で歸つて來た。(終)

わからないぞへ

[illegible]草

到る處に不義理な借金
「こはそも何」と
わからないかへ呑氣な才人
それが好んで此苦しみを
健氣な辭うなりはすれど
使ふて呉れる工場はないし
なけなしにや日に夜に妻子が痩せて
飢えに泣く分身を割く思ひ
死ぬより辛らい苦しさ餘り
不義と知りつつオッしや仕末
ここに新い道もしあるならば
教へて給へオ願ひ申す
誠はすべて
ものを貫く道とは聞けど
知つてはおれど
御存じなされ今の世の中
誠の道を歩んで御座る
正しきオ方が怪我にもあるか
いくら男子で是と非の區別
胸は慥かで間違ひないが
わからないぞへ腕拱ねいて
身に柔な絹布を卷いて
口にやいつでも甘酒さかな
それに飽いては姉妹の肉を
殺いでは流る血までも骨も
啜つて安眠る奴等のあるが
ほんに私は思ひましたよ
「男子よろしく生活難と
いくさしながら節操を守り
其品格を磨けばそこに
人生の曙光は輝き出る」と
そんな六ケ敷ことするよりも
いつそのことに
こんな困つた苦しいことを
無くする法は無いのか知らん
誠の道を難なく行つて
樂しゝ休む
時と處は無いのか知らん

○手紙片々

▲舟木一義氏(石見) 貴號三十號所載の大姉の「男女道を異にす」と題する論説中、姦通したる婦人は一年以下の懲役に云々と有之候得共、此度改正刑法は其百八十三條に二年以下と有之候、從て貴說の如く今一段御婦人方を蔑視し居るものと憤慨に耐えず候、近頃誤字脱字等殊に多き樣見受けられ候、最も萬諸不如意の中に百難を排しての御事なれば兎角無らならぬ事に候得共、貴姉等に御誌を思ふの餘り、老婆心までに候、何卒惡しからず、五日公判如何相成候や、眞に氣遣はしく候

▲岩崎秋月氏(丹波) 女史健腕にして筆硯益健、亦不樂平、京丹之天地、昨今秋雪霏々たり、吹風は紅葉の葉を散布して自然の活景與に消絶、女史昨秋、吟杖を曳いて余が山居を訪ねられ、語らされたる治代の義人正造田中老翁之筆跡は幸にして軸縮とも今日表裝成り作朴其宜しきを得て欄頭を飾へたり、今後我茅屋草舍に掛けて以て日夕此敬慶する師父に見ゆる事となおる、實に女史の至情たるを茲に多謝す

▲増田操氏(和歌山) 秋高馬肥の好時節に際し、諸同志皆迫害せられ、遂に貴誌も又々やられたる趣、彼等橫暴なる手加減、憤慨に不堪候、其後の成行如何相成候や御見舞申上候

▲白衣氏(宇治山田) そよ吹く風の身に沁む頃と相成申候、都の空は何となく心苦しふは候はずや、石川兄の著「虚無の靈光」は遂に拘禁のまゝに候哉、馬鹿々々しき事にて候、「世界婦人」の發行停止と云ひ、愈々出でゝ愈々珍なる當路者の迫害こそ明治時代に於ける一大怪事にて候ぞや、されど弱者が反抗の力も中々輕々に視過はなし得ず候はん

▲市川傳吉氏(函館) 在京中一度御伺申べき筈に候處急に出發せし爲め甚だ失禮仕候ヤハリ旅行の目的は例の幻燈を使用し臨かに、又或時は側面的に、主義の傳道をするのです、至る處に貴兄の所謂社會主義の名を知らない社會主義者が續々發生しつゝあるは事實に候、僕先年谷中村に行き其暴政非道に驚いたが今囘當函根に來て紳士閥の爲に此遊覽場が有ゆる設備の行屆き居るにはオッタマゲ申候、神奈川縣は社會の寄生虫共の機嫌を取る爲に多大なる費用をなげうち候、函嶺は世界的の淫賣所で又世界的の賭博場だと内山和尙が言はれたが實に至言に候

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

色即是空

▲老人訓 (佐治実然氏)(抜粋)

子を生む人は世の中に澤山あるけれども子を育てる人はナカ〳〵少い事と思ふ、アレは子が育つので親が子を育てるのぢやないと思ふ、それから又子を育てる親は稀に見る事があつても子を教へる丈けの品行の方正なる親と云ふものは容易に私が見る事が出來まいと思ふ、此の一ッを以ても青年の墮落ちやない老人の墮落ちやと思ふ、それからモウ一ッある、私の考へには青年男女の關係は合意に成立するから所謂自然主義ではないけれども餘程この方が罪が輕いと思ふ、日比谷公園の共同ベンチか何うだの戀うだのと評判が時には新聞や雜誌に澤山出るけれども中にも惡い婦人も居るでせうけれども先づ青年男女の關係……などと云ふものはさう云ふやうな合意で成り立つのであります處が老人對婦人の關係は何うだと云ふと之は金錢で行くか權力で行くかこの二ッを以て女の操を破らせるのですから自分が斯う云ふ事の經驗があると云ふではない方でありまするが、書生で金のない時は男が立派であるから女から惚れられる、身體が衰へて容貌の美が去ると金が出來る金で女の心を釣ると云ふやうな風に何方から考へても男と云ふ奴は女に向つては餘り我儘を仕過ぎるかの如く私は小牛感じて居るが是はマア餘論として說くのであります今日の社會の狀態を見ると青年の墮落よりは寧ろ老年者が金錢の力、權力の力を以て女の操を破らしめ女の操を買ふ場合が幾百幾千この社會にあるか、殆んど私は枚擧に遑ない程澤山あるだらうと思ふけれども今日の社會では妾の一人も置くやうになり女中を孕ましめて手當金を與へて親元に歸すと云ふのが寧ろ成功した、脈のあるエライ人だと云ふ風に低い社會から褒めるから老人も好い氣になつて居るけれども我々宗教倫理と云ふものを標榜して奮鬪して居る人間から見れば、さう云ふ人の心は今少し何とかして行かないとやなるまいと思ふ。(丁酉倫理會講演集)

淺草生活の今昔

(稻田湖光氏)(抜粋)

その昔、推古天皇の御宇とかや、檜熊、濱成、武成といふ三人の兄弟が淺草川で漁してゐた時、網にかゝつた十一面觀世音、それが淺草趣味の抑々の種子で、三人の漁夫は、此の觀音を信仰したところ、それから魚のとれることが頗る非常であつたので、川の邊に小い祠を建てゝ觀音様を祭り込んだ、之を淺草といつて靈驗淺からず、であつた。其後三人の兄弟が死んだので、其れを祭つたのが三社權現となつたのである その頃此の御堂の側は、總野奥羽の驛路で一つ家の宿といつて物凄い所であつた。此處に邪見な老婆が美しい一人娘と旅人宿をしてゐる。少し金でもありさうな旅人が宿ると、老婆は娘と心を合せて旅人に添寢をさせ夜中によく寢入つた頃を見計らひ、天井から兼ねて吊つけにしておいた大盤石を落して壓殺し、その金錢衣服を奪ひ、死骸は裏の池の底に埋めて何知らぬ顔をしてゐた、ある時貴い人が來て宿つた、娘はその貴人を一目見ると、直に戀中になり、且つ今までの罪業の恐ろしきを感じたので、夜中に貴人を自分の寢床に臥させ、自分は旅人の寢床にねて居た、老婆はそれとも知らず、丑滿頃例の大盤石を落し、うれしやと灯をつけて見たところ、娘が潰されてゐたので、落膽して、裏の池に身を投げて死んでしまつた。之れが淺草魔窟の抑々の初めで、今尚連綿として絶えない、其の後、朱雀院の御宇、平公雅、淺草寺をたて、治承四年には、賴朝が此の觀音に祈つて、平家を討つたところ、終に天下を一統することが出來たので、大に殿堂を修飾した。戰國時代には、足利基氏、北條早雲等の信仰極めて厚く、漸く人家も增加し來たり、德川時代になつて、急に繁昌し、花川戸の俠客と、淺草と吉原とは大關係を有して、江戸の花であつた。

明治の今日になつてはます〳〵繁昌して來た、十八間四方の觀音堂は、嚴めしく低い街に臨んで、善も惡もお關なく、美も醜も選ばず、東から西へ南から北へ一種特有な淺草趣味を鼓吹してゐる。又此の堂下に住んでゐる幾多の人々、は善人も惡人も皆觀音様の無量無邊の御威德を仰いで參詣を怠らない。日本國中五千萬の民衆は多いといつても、淺草の觀音様を知らない者はない、東京は如何に賑やかだといつても、淺草六區に及ぶところはない。だから日本一の靈場附近の生活は、之を客觀に居て見れば、又日本一の面白い所であ。(趣味十一號)

●新書紹介

▲孤雁挿畫集 は西洋挿畫家戸張孤雁君の處女作である此の著書は氏が心膽を練りたる優秀の物のみを集め現今の我が挿畫界に對して自己の立脚地を明らかにし且ツ改革を宣言したものと云ふべきものである、版は四六二倍版で、收むるところの挿畫數は雪中の樓拾ひ、齢の春と五ッ背後の春、同じ動物研究家の夜祭溜さん先づ一服、老結婚さ人生、お父様何處で、自然と人生、天の拍手、家族の身の上、孤子と武賦、書風、胸なきザビー、冷語、歸國 ヴアイオリスト、婦人の十八種で、別に挿畫に關する歷史的論、イラストレーション、挿畫と美術思想の普及、學文と挿畫、原始時代、銅版畫時代、日本の挿畫、白線汁挿畫時代、ワッシ時代等を附してある、如何に在來の挿畫さ[illegible]の無さな異にせるかは一目瞭然たりだ、感情の表現、描寫の方法に於ては、識かけ必ずむ奇の感を抱くであらう、畫集の各篇に就て評論を試みむとしたが、編輯上の都合に由て妨げられた、で後日細論することとして、今號には單に紹介のみに留めて置く專門家のみならず、多少繪畫に對して趣味を有する者には、少からぬ興味を與へるであらう(神樂坂生)(東京市本郷區大鉾町二丁目廿五 高[illegible]倫家出版 定價金五十錢)

▲新天地(第一號) ユニヴアーサリスト教會牧師赤司繁太郎氏之を主幹す其趣意は思想界動搖の最中に應じて我が宗教文藝の刷新を圖り、以て現代人文の精神向上に貢せんとするにあり、記載論文は皆人與味の脫せざる所あれども、材料頗る豐富に創刊早々斯くまでに多方面より蒐輯せる其勞は蓋し想像の外なるべし、就中赤司氏の『現代宗教思想の動搖』小川未明氏の小說『老婆』櫻井天所氏の『ホオフマンスタアルの象徵劇』山路愛山氏の『[illegible]子編』等最も出色の文と云ふべきか(毎月一回十一月發行定價廿錢)

クリスマス新年御進物用

●クリスマスのよろこびのおさずれ スカツーダ先生著 定價二十錢 郵税二錢

◎本多庸一先生說教集 青山學院教授 定價六十錢 郵税六錢

●山田寅之助先生說教集 青山學院教授山田寅之助先生著 定價四十五錢 郵税六錢

◎埃及及聖地旅行談 山田寅之助先生 定價五十錢 郵税八錢

◎羅馬觀光記 山鹿旗之進君譯 定價五拾錢 郵税六錢

◎耶蘇基督 山鹿旗之進君譯 定價三拾五錢 郵税六錢

◎幸福の生涯 二版 百島冷泉君 定價三十六錢 郵税六錢

◎通俗天路歷程 サトキンス校著大谷虞君譯 定價二拾錢 郵税二錢

◎兒童之宗教 トランベル校著櫻井成明君譯 定價四拾錢 郵税六錢

◎日曜學校教授法 田中太郎君譯 定價三拾錢 郵税六錢

◎千代の功績 文學士木山熊次郎君著 定價二十錢 郵税四錢

◎希望の青年 シエルドン原著 奥山夫人 田中栗子 兩女史譯 定價四拾五錢 郵税四錢

◎七日間 小畑久五郎先生說教 定價三十五錢

◎十字架の道 定價二十錢 郵税四錢

◎キリストの寫眞 定價一枚二十五錢 郵税二錢

◎マリヤの寫眞 同上

●セントアンゼロの鐘の寫眞(晩鐘の新) 同上

◎美麗絹製芙蓉技折 元陸軍教授黒川正君著 定價一枚十八錢 十枚迄郵税二錢

◎日英獨共通會話カルタ 一箱金三拾五錢 郵税六錢

●家庭幼稚園小學校適用 手工科折紙見本及圖解 一箱三十錢 郵税六錢

東京銀座四丁目壹番地 内外書肆 教文館 (電話新橋二五二六番)(振替口座一一三五七)

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

伊豆三島 花島煉乳場製
名譽ある
金鶏ミルク

總發賣元 東京市日本橋區大傳馬町
逸見山陽堂
(電話浪花二一五番 振替貯金口座三九六番)

小兒科
內科
婦人科
每日 自午前八時 至午後六時
淺草區馬道町三丁目
小牧醫院

明治四拾二年用
吾家の歷史
定價 (折皮金線一圓 總金巾四十錢) 折皮九十錢 郵税各八錢
吾家の歷史は往來、爲したる事得たる思想、社會の出來事、雜事の諸欄に分ち詩歌と、格言と、殊に其日歷史上の事實を記載しに起りたるは趣味參考頗ぶる至れりと云ふべし、卷頭に永眠、結婚、誕生、其等家眷録と其他の便覽を附したり、用意の周到と注意の綿密なる蓋し稀に見る處の日記簿なり
發兌 東京京橋尾張町 警醒社書店

淚紅醫院長
醫士 一瀨鷹一
本院 日本橋區蠣殻町二丁目十四番地
二院 神田區連雀町十八番地
學生勞働者薄給者諸氏には藥價手術料共半減又は無料

齒科治療 自午前八時 至午後十時
吉瀨齒科醫院
院主 吉瀨才市郎
東京市神田須田町二十六番地
(萬世橋內右横町)
●藥價手術料共半額
●貧困者施療

●歐米諸國最新流行 禮服用時計
天賞堂特別注文新品

●純白金側(環地)……價參百參拾圓
●純白金側(環地)……價參百五拾圓
●拾四金側(無地)……價參拾五圓
●拾四金側(彫子)……價五拾八圓
●拾四金側(環彫刻又は地)價六拾圓
●拾八金側(無地)……價四拾五圓
●拾八金側(無地)……價七拾圓
●拾八金側(環彫刻又は地)價七拾貳圓
●拾八金側(純彫)……價百廿五圓
●拾八金側(無地環地又は彫子)價貳百五圓
●金着側(無地環地又は彫子)價廿四圓
●銀側(無地)……價拾貳圓
●銀側(環地)……價拾貳圓七拾五錢
●銀側(彫子)……價拾參圓
●銀側(彫子)……價拾四圓
●銀側(環地)……價廿壹圓半

以上盤面文字羅馬數字亞剌比亞數字共同價の事
●市外送料金十二錢 振替貯金口座五九六六
東京市京橋區尾張町二丁目
時計及寶玉類內外貴金屬美術品商 天賞堂
電話新橋 特三三三 特三一五三
電話(東七三三) 天賞堂大阪出張所
電話(本二六〇) 天賞堂神田出張所
電話(八七六) 天賞堂横濱出張所
電話(二二九) 天賞堂長崎出張所
●天賞堂秋季大賣出し
(連日非常盛況に付十一月十日迄日延)

文學博士 法學博士 男爵 加藤弘之先生著
迷想的宇宙觀
定價金七十五錢 郵税金八錢
昨年八月「吾國體と基督教」を刊行せし以來其批評紛々として既に數十種に上れり仍て今般其の批評に對して更に批評を試み且つ簡單なる二大問題を擧げて讀者にその解答を乞へり基督教が迷信なりや否や又吾國體に有害なりや否やはその解答の如何によつて解決せらるゝを得べしと信ず大方の君子重ねて批評せらるゝこともあらば幸甚
著者 加藤弘之 敬白

ワーナー、ファイト氏原著
東洋大學講師 中島德藏先生著
解說批評 倫理學原論
定價金五十五錢 郵税金八錢
ワーナー、ファイト氏の『倫理學原論』は快樂論と觀念論との二大立脚地の調和を試みし者にして理論的に卓拔の見に富みしのみならず又當時社會の實際問題を捉へてこれに明快なる解答を與へし一新好著なりこれを以て吾國にても大島博士の飜譯によりて已に紹介せられつゝあり然るに譯文に慣れぬ讀者は往々その眞意を解する能はざるを遺憾とし これが解說を求むるもの少からず仍て一々質疑解答の勞を省かんため各篇各章の順を追て殆ど各節毎に其の大意を取り最も簡易に明瞭に讀者をして原著者の意を窺はめしむと力み且つ讀過筆錄の際卑見を以てこれに批評を試みたるものは書本なり
述者 中島德藏 敬白

文學博士 村上專精著
女性訓
定價四十錢 郵税六錢

東京市小石川區原町六 丙午出版社 振替貯金口座一一五六八六番

商店改築大擴張
手巾類種々
造花類種々
西洋小間物
カルタ齒磨は 口中にある諸種の細菌を殺します
カルタ齒磨は 齒牙のゆるみを緊縮するの効がある
カルタ齒磨は 口內の悪臭食物滓渣の腐敗を防ぐ
カルタ齒磨は アルカリ性なれは口內醱酵を防ぐ
カルタ齒磨は 最も微細の粉なれは齒を磨耗せず
カルタ齒磨は 常用すれは口腔齒牙の諸病を防ぐ
東京市京橋區尾張町二丁目八番地
電話新橋二七六七番
光明堂

◎定價 ▲一部六錢●十部五十五錢●二十部壹圓▲申込は總て前金の事
發行兼編輯人 東京府豐多摩郡淀橋町角筈七三八番地 石川三四郎
印刷人 東京市牛込區新小川町三十一番地 井口正之
發行所 東京府豐多摩郡淀橋町角筈七三八番地 世界婦人社
印刷所 東京市神田區[illegible]町[illegible]番地 博興堂

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY